

4	<p>・広島県は風水害が起こりやすい場所であることを認識させる。 ・風水害は自分の身近なところで起こるものだということを認識させる。 ・風水害の危険が迫っている時には早めの避難が重要だということを理解させる。</p>	<p>【2】「身の周りの危険」を考える</p> <p>・風水害という言葉について説明する。(説明の例:風水害とは、強い風や激しい雨で起こる災害のことです。) ・広島県では風水害が起こりやすいということを説明する。</p> <p>・P3の地図のイラスト(かけ崩れ、土石流、川の氾濫、高潮が起きた場合の一枚の地図のイラスト)を再掲する。再掲したイラストの周辺に、それぞれの実際の被害の写真を掲載する。 ・崖の近く…崖崩れの写真 ・山の近く…土石流の写真 ・川の近く…川の氾濫の写真、急な大雨による川の水位の変化の写真(既存の低学年用教材のP7の写真2枚) ・海の近く…高潮の写真</p>	<p>【このページの構成等のイメージ】</p> <p>①「風水害」という言葉を説明する。 ②P2～P3でイラストで説明した内容について、写真を用いて実際の被害の様子を見せる。 ③安全な場所に早く避難することが大事だと説明する。</p>
5		<p>(キャラクターセリフ例) 「いつも見ているあの山、崖、川、海が、危ない場所になるんだね。」 「風水害はわたしたちのすぐ近くでおこるかもしれないんだね。」 「広島県ではこれまでに風水害でたくさんの方が亡くなっているんだよ。」 (問いかけ5)「風水害から命を守るためには、危険な場所から_____な場所には、はやく_____することが大事だよ。」(空欄に答えを書かせる)(答え:あなげん、ひなん)</p>	
6	<p>・風水害の危険がある時に身の周りでどのような場所が安全かを考える力を養わせる。 ・風水害の危険がある時の避難経路の決め方を考える力を養わせる。</p>	<p>【3】「災害への備え」を考える</p> <p>避難する場所を考える。 (問いかけ6)雨や風で危ない時に、どこにいれば安全かを考えてみましょう。 自分の家の近くに山、崖、川、海などの危ない場所がある人は、自分の家の近くにある安全だと思う場所に○をしましょう。自分の家の近くに山、崖、川、海などの危ない場所がない人は、自分の家に○をしましょう。 (選択肢の例)学校、高いマンション、自分の家 等(※ 内容要検討)※イラストあり</p> <p>避難経路の決め方を考える。 (問いかけ7)○○さん(主人公)は、家族で話し合って××小学校に避難することにしました。雨や風で危ない時、○○さんの家から××小学校まで、どこを通過して避難したらいいと思いますか。 (イラストで主人公の家から避難所までの道が2パターン程度想定される地図を示して、2パターンの避難経路からどちらかを選択させる。①(普段通る)近い道 ②崖や川から離れている遠回りの道)</p>	<p>【このページの構成等のイメージ】</p> <p>①どこに避難したら安全か考える。 ②どこを通過して避難したら安全か考える。</p>
7	<p>避難に必要な物を考える力を養わせる。</p>	<p>避難に必要なものを考えよう</p> <p>○避難する時に必要な物を考えよう (問いかけ8) (1)避難する時に何を履いていけばいいでしょうか。(選択肢)履きなれた運動靴・長靴・はだし ※イラストあり (2)それを選んだ理由を周りの人と話し合みましょう。(自由記述)</p> <p>○避難した後に必要な物を考えよう ※ 避難所の写真又はイラスト等、実際の避難所の様子がイメージできるものを掲載すること。 (問いかけ9) (1)避難した後、避難所に食べ物や飲み物はたくさんあるでしょうか。(選択肢)ある・ない ※イラストあり (2)では、避難所にどんなものを持って行ったらいいと思いますか。周りの人と話し合みましょう。(自由記述)</p> <p>(問いかけ10) (1)避難した後、避難所の水道から水は出るでしょうか。(選択肢)出る・出ないかも ※イラストあり (2)では、避難所にどんなものを持って行ったらいいと思いますか。周りの人と話し合みましょう。(自由記述)</p>	<p>【このページの構成等のイメージ】</p> <p>①避難する時に何が必要か考える。 ②避難した後に何が必要か考える。</p> <p>【解答・解説】</p> <p>・(問いかけ7)(問いかけ8)(問いかけ9)の解答・解説は動画及び活用マニュアルに掲載すること。 ○避難する時に必要な物を考えよう (答え7) (1)運動靴 (2)脱げにくいから。履き慣れているから。 避難をする時は、脱げにくく、はき慣れた運動靴を履きましょう。 長靴は脱げやすく危険です。 はだしはけがをしやすく危険です。 ○避難した後に必要なものを考えよう (答え8) (1)ない (2)レトルト食品、缶詰、水 など 避難した後、避難所には食べ物や飲み物はたくさんありません。 自分の食べ物や飲み物は自分で準備しておきましょう。 (答え9) (1)出ないかも (2)からだを拭くもの、携帯トイレ など 避難した後、避難所では水道が止まる場合があります。水道が止まると、お風呂やトイレを使うことができません。 水道が止まっても清潔に過ごせるように、からだを拭くものや携帯トイレを準備しておきましょう。</p>

8	<p>家族で避難や備えについて考える。</p>	<p>【家族で避難を考えるシート(仮称)】(※ 名称、内容は別途検討) (問いかけ11) あなたの家族が実際に避難する場所を2箇所、家族と決めて書きましょう。 「雨や風で危ない時には_____か_____に避難をする！」(空欄に具体的な場所を記載させる) (ハザードマップポータルサイトHP、避難所・避難場所検索サイトのQRコード等を掲載する。 また、避難情報は「広島県防災Web」で確認できることも案内する。) (問いかけ12) どんなものが避難に必要か考えて書いてみましょう。(自由記述) 「広島県「みんなで減災」はじめての一步ポータルサイト」(防災グッズ一覧)のQRコードを掲載する。</p>	<p>【このページの構成等のイメージ】 家族で避難について考える。</p> <p>【避難する場所を決めるための参考サイトのURL】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップポータルサイト https://disaportal.gsi.go.jp/ ・広島県「みんなで減災」はじめての一步 避難所・避難場所検索 https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/search/ ・広島県防災Web http://www.bousai.pref.hiroshima.jp/?p=top ・広島県ホームページ 広島県「みんなで減災」はじめての一步 https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/prepare/goods.html <p>・P8は切り取り線をデザインに含める。切り取り線に沿ってはさみで切り取ることで1枚のシートとしても活用できるようなレイアウトにすること。</p>
---	-------------------------	---	--

風水害 高学年 新教材構成素案

ページ	学習の目標	内容	摘要
1 (表紙)			<p>【表紙イメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の趣旨に沿っている。 ・他の3つの新教材の表紙と統一感がある。 ・児童、保護者、職員の印象に残りやすい。
2	<p>(ストーリー導入) うまく避難できない とどうなる可能性 があるのか理解させ る。</p>	<p>【ストーリー】 (冒頭のシーンの設定) 広島県に住む主人公一家。家の近くには山と川(例)があります。 主人公の町には数日前から雨が降り続いています。 主人公一家は、避難所に向かう途中で車が水に浸かり、動けなくなりました。車の中で助けを待つ主人公一家。すると、車のすぐ目の前に土砂が流れ込んできます。間一髪で命は助かりましたが、しばらくの間、車の中で救助を待つしかなさそうです。車のすぐ横には崖(例)があり、このままではいつがけ崩れ(例)に巻き込まれるか分かりません。また、水や食料など、避難に必要なものは満足に準備できていません。</p> <p>・車で立ち往生して困っている主人公一家の様子 (父)「この道は横の崖(例)が崩れそうで危ないな。違う道を通たらよかった。」 (母)「いつまでこの状態が続くだろう…。水や食料は足りるかな。慌てて準備して家を出たけど、事前にいろいろ準備しておけばよかった。」 (祖父)「まさかわしらがこんなことになるなんて…。事前にいつどこに避難するか決めておいて、もっと早く避難すればよかった…。」 (主人公)「こうなる前に私にも何かできることはあったのかな。」</p> <p>・主人公の家の周りの町の地図を掲載して児童にストーリーの舞台の設定を理解させる。地図は、他の3つの新教材と同様の地図とすること。</p>	<p>【全体的なこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本や漫画等のイメージでストーリーを展開していく。 ・風水害への備えについて「ダメダメ」な家族を登場人物に設定。 <p>【キャラクターについて】 ※地震高学年の新教材と一貫したキャラクターとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公(小学生)とその家族(例:父、母、祖父)、先生のキャラクターが登場する。 ・広島県防災キャラクターのタスケ三兄弟が登場させることは可とする。 ・必要に応じて追加でキャラクターが登場させることは可とする。 <p>【主人公の家の周りの設定】 ※他の3つの新教材と一貫した設定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の近くに山、崖、川、海がある。 ※「家の近く」とは、自宅に少なくとも ①土石流または崖崩れの被災リスク、②川の氾濫のリスク、③津波の被災リスク があり、且つ自宅から小学校まで一番近い道を通ると、山、崖、川、海に関する被災リスクを網羅している状態とする。 (例:自宅に土石流、川の氾濫、津波の危険あり。自宅から小学校までの一番近い道に崖崩れ、川の氾濫の危険あり。) ・家の標高は低い。 ・家の近所に公園がある。公園の標高は低い。 ・家から少し離れた場所に主人公が通う小学校がある。小学校の標高は高い。 ・小学校は風水害、地震・津波のいずれでも避難所となっている。 ・家から小学校までの一番近い道は危険である。 ・家から小学校までの遠回りの道は安全である。 ・近所(同じ地域)に低学年の新教材の主人公が住んでいる。 ※ 高学年の教材では、地図中の主人公の家及び町を舞台にしたストーリーで、風水害及び地震・津波の危険を説明する。 <p>【このページの位置付け】 うまく避難できないとどのような困った状況になるかを児童の印象に残すための導入</p> <p>【このページの構成等について】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①車で立ち往生して困っている主人公一家の様子 ②状況説明 ③町の地図 ④登場人物の紹介(欄外) <p>※ ①～④は順不同</p>
3		<p>(欄外) 登場人物の紹介。 登場人物の例:家族(主人公、父、母、祖父)</p>	

<p>4</p>	<p>風水害の危険が迫っている時にとるべき行動を理解させる。</p>	<p>(ここから過去を振り返る回想シーン)</p> <p>(ストーリー1) 【梅雨入りの時期】 主人公一家がテレビを見ている。 主人公の住む地域は今日梅雨入りしたようです。 (テレビのニュース)「本日梅雨入りしました。備蓄品や持出品等、大雨への備えを確認しておきましょう。」 テレビを見ながら (母)「梅雨入りしたのね。大雨への備えてやっとなんかなくてどうしたらいいかわからないけれど、何か準備しておいた方がいいのかしら。」 (祖父)「まあこの辺りにはこれまでに大きな災害は起きてないから今年もどうせ大丈夫じゃよ。テレビは大げさなんじゃから。」(ダメセリフ)</p> <p>(分岐1)…ダメセリフの後、主人公たちが実際に選択したダメな行動 (母)「確かにこれまで大丈夫だったわね。」(何もしない) 災害発生当日 車の中 (主人公)「お腹が空いたよう…」 (父)「服が濡れて風邪をひきそうだな…。着替えを持ってきておけばよかった。」 (祖父)「なんかトイレに行きたくなってきたのお。」 (母)「もっとちゃんと事前に準備しておけばよかった。」</p> <p>(分岐2)(問いかけ1)…ストーリー最後のダメセリフ(「まあどうせ大したことないから大丈夫じゃよ。テレビは大げさなんじゃから。」)に対して、児童に行動と理由をアドバイスさせる。 (児童)「ちょっと待って! 【行動】_____ (自由記述) _____ をしておこうよ! なぜなら 【理由】_____ (自由記述) _____ (セリフ自由記述)</p>	<p>【このページの位置付け】 災害への備えの重要性に気付かせるためのストーリー</p> <p>【ページ構成のイメージ】 ① ストーリー(最後にダメセリフ) ② ダメセリフの後に実際に主人公たちが選択した誤った行動及び、その結果(困ったことが発生) ③ 「主人公たちはダメセリフの後こうすればよかったのではないか」という視点で、児童にアドバイスをさせる。</p> <p>【用語説明】 ・分岐1: ダメセリフの後に主人公たちが誤った行動を選択したらこうなった、という結果を見せる。 ・分岐2: ダメセリフの後に主人公たちはこうすればよかった、というものを児童に考えさせる。</p> <p>【(問いかけ1)の解答例】 【行動】備蓄品、持出品の準備 【理由】災害はいつでも起こるかわからないから 【趣旨】これまで被災したことがないからといって、災害が起きないとは限らない。身近なリスクを把握し、災害を自分ごと化し、日頃から準備しておく必要性に気づかせる。(全問いかけに通じる趣旨)</p>
<p>5</p>	<p>自分の災害への備えについて考えさせる。</p>	<p>(ワーク1)災害への備えについて考えてみよう</p> <p>(問いかけ2)家に準備しておくものを10個(仮)考えて書きましょう。(自由記述) ※ 家から3日間出られない場合を想定して、家に何を準備しておくか考えさせる。 ※ 県ホームページのQRコードを掲載する。 ・(コラム)ローリングストックの説明</p> <p>(問いかけ3)家に何を準備しておこうと考えたか、周りの人と話し合みましょう。</p> <p>(問いかけ4)避難所を持って行く非常持出品袋に入れるものを5個(仮)考えて書きましょう。(自由記述) ※ 3日間避難所で過ごす場合を想定して、自分一人で持てる量のものを選びます。</p> <p>(問いかけ5)何を避難所を持っていこうと考えたか、周りの人と話し合みましょう。</p>	<p>【このページの位置付け】 (問いかけ1)の解答例(備蓄品・持出品の準備が必要)に対応するワークページ</p> <p>【ページ構成のイメージ】 ① 自分の家に準備しておくものを考えさせる(備蓄品) ② 何を準備しておこうと考えたか、周りの人と共有させる。 ③ 避難所を持って行くものを考えさせる。(持出品) ④ 何を避難所を持って行こうと考えたか、周りの人と共有させる。</p> <p>【(問いかけ2)で掲載するQRコードのURL】 広島県ホームページ 広島県「みんなで減災」はじめての一步 https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/prepare/goods.html</p> <p>【(問いかけ2)の中でコラムとして掲載するローリングストックの説明文】 使いながら備蓄「ローリングストック」 ローリングストックとは日常生活の中で普段食べている食品を多めに買い置きし、使いながら使った分を買い足し、備える備蓄方法です。消費と購入を繰り返すことで、備蓄品の賞味期限切れのおそれも少なくなり、いざという時にも日常生活に近い食生活を送ることができます。このローリングストックは、食品以外の普段使用している日用品などにも活用できますので、ぜひ下記の例を参考にご家庭での備蓄に取り組んでみてください。 食料品: 水、レトルト食品、カップ麺、缶詰など 日用品: トイレ用ペーパー、乾電池、マスク、アルコール消毒液など (出典: 広島県ホームページ 広島県「みんなで減災」はじめての一步 備える URL: https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/prepare/)</p>

<p>6</p>	<p>・危険な場所を知るためのツールとしてハザードマップがあることを認識させる。 ・事前に避難する場所を決めておくことの重要性を理解させる。 ・風水害の危険がある時の避難経路の決め方を理解させる。</p>	<p>【災害発生数日前】 雨が降り続いています。 (テレビ)「現在雨が降り続いており、この後数日の間、しばらく雨が続く予報となっています。山や崖や川の近くでは、土石流、崖崩れ、川の氾濫などが起こる可能性があります。いざという時にはすぐに避難できるよう、ハザードマップを見て、家の周りが安全かどうか確認しておきましょう。そして、いざという時にどこを通過してどこに避難するかをあらかじめ決めておきましょう。」 (主人公)「うちの近くには山と川(仮)があるけど、もしかしてここにいたら危ないのかな。」 (父)「〇〇は心配性だなあ。前におじいちゃんがこの辺りは何も起こっていないから安全だと言ってたし、そんなに心配しなくても大丈夫だろう。」</p> <p>(分岐1) (主人公)「(不満気な顔で)うーん、そこまで言うならそうなのかなあ…?」(そのまま何もしない)</p> <p>災害発生当日 主人公一家が外を見る。家の前が冠水している。 (父)「どこに避難すればいいんだろう…急いで調べなきゃ」 (母)「これ以上冠水する前に早く避難しないと…」</p> <p>数時間後 車の前に土砂が流れてくる。 (一同)「うわあああああああ」</p> <p>(分岐2)(問いかけ6) (児童)「ちょっと待って！ 今すぐ【行動】①_____(自由記述)_____ したり、どこを②_____(自由記述)_____ 、どこに③_____(自由記述)_____ 決めたりしておこうよ！ だって、これまでに何も起こっていなかったとしても、【理由】_____(自由記述)_____ (セリフ自由記述)</p>	<p>【このページの位置付け】 次のことの重要性に気付かせるためのストーリー ・ハザードマップを確認して自分の身の周りの危険を知る ・どこを通過して避難するか決めておく ・どこに避難するか決めておく</p> <p>【ページ構成のイメージ】 ① ストーリー(最後にダメセリフ) ② ダメセリフの後に実際に主人公たちが選択した誤った行動及び、その結果(困ったことが発生) ③ 「主人公たちはダメセリフの後こうすればよかったのではないか」という視点で、児童にアドバイスをさせる。</p> <p>【用語説明】 ・分岐1: ダメセリフの後に主人公たちが誤った行動を選択したらこうなった、という結果を見せる。 ・分岐2: ダメセリフの後に主人公たちはこうすればよかった、というものを児童に考えさせる。</p> <p>【(問いかけ6)の解答例】 【行動】①ハザードマップを見て家の周りが安全かどうか確認 ②通って ③避難するか 【理由】ここが安全だとは限らないから(危ないかもしれないから) 【趣旨】災害は身近に存在することを理解・認識(全問いかけ共通)して、日頃から自宅周辺のハザードマップを確認し、安全な避難場所と避難経路を確認しておく必要があることに気づかせる。</p>
<p>7</p>	<p>・いざという時に自分はどこに避難すればいいかを考えさせる。</p>	<p>(先生)「ハザードマップとは、被害が想定されるエリアや避難する場所などを表示した地図のことです。」 ・先生がハザードマップの凡例などについて説明をし、主人公の家が危ないということに触れる。</p> <p>(問いかけ7)主人公の家の周りの危ない場所を示したハザードマップです。主人公はどこに避難したらいいと思いますか。(主人公の家の周辺のハザードマップのイラストの中に、避難所の候補を複数掲載しておき、その中から選択して解答させる。)</p> <p>(問いかけ8)主人公一家が近くの〇〇小学校に避難する場合、主人公の家から〇〇小学校まで、どこを通過して避難したらいいでしょう。 (イラストで主人公の家から避難所までの道が何パターンか想定される地図を示して線を引かせる。①普段通る近い道 ②山や崖や川から離れている遠回りの道 等)</p>	<p>【このページの位置付け】 (問いかけ6)の解答例(ハザードマップを確認して自分の身の周りの危険に気付く、どこを通過してどこに避難するか決めておく)に対応するワークページ</p> <p>【ページ構成のイメージ】 ① 主人公はどこに避難したらいいかを考えさせる。(解答:主人公が通っている小学校) ② 避難所までどこを通過して避難したら安全に避難できるかを考えさせる。</p> <p>・(問いかけ7)と(問いかけ8)を効果的に関連付けた問いの見直しをすることも可とする。</p> <p>【自宅周辺のハザードマップの確認、避難先、避難経路の確認(P15)への誘導】 ・いつ、どこで災害が起こるかわからないことを理解させ、自宅周辺のハザードマップの確認等にも取り組むよう促す。</p>

<p>8</p> <p>・早めの避難の重要性を理解させる。</p>	<p>【災害発生当日】 主人公の家の周りには激しい雨が降り続けている。 (テレビ)「数日前から雨が降り続いています。避難に時間がかかる人は避難しましょう。」(テレビには「警戒レベル3高齢者等避難」のテロップあり) (主人公)「避難に時間がかかる人は避難しましょうだって。」 (父)「おじいちゃんはひざが痛くて避難に時間がかかるから、みんなで早く避難した方がいいのかな。」 (祖父)「え？わしは大丈夫じゃよ。それに、この家はこれまでの大雨でも大丈夫だったから、今回も避難しなくてもどうせ大丈夫じゃろう。」(ダメセリフ)</p> <p>(分岐1) (母)「おじいちゃんがそう言うなら…」(何もしない) 数十分後 テレビを見たら避難情報が流れている。「警戒レベル4避難指示」のテロップあり。家の前が冠水している。外を見る主人公一家。 (主人公)「わっ、さっきまで大丈夫そうだったのに、もう玄関前まで水がきているよ！」 (父)「これは大変だ！すぐにでも避難した方がよさそうだな。」 (祖父)「ほんとじゃ…。さっきは避難せんでいいとか言ってすまんかった…。」 (母)「今から安全に避難できるかしら…」</p> <p>(分岐2)(問いかけ9) (児童)「ちょっと待って！【行動】_____(自由記述)_____しよう！ なぜなら【理由】_____(自由記述)_____」(セリフ自由記述)</p>	<p>【このページの位置付け】 早く避難することの重要性に気付かせるためのストーリー(いつ避難するかをあらかじめ決めておくことの重要性に気づかせる)</p> <p>【ページ構成のイメージ】 ① ストーリー(最後にダメセリフ) ② ダメセリフの後に実際に主人公たちが選択した誤った行動及び、その結果(困ったことが発生) ③ 「主人公たちはダメセリフの後こうすればよかったのではないか」という視点で、児童にアドバイスをさせる。</p> <p>【用語説明】 ・分岐1:ダメセリフの後に主人公たちが誤った行動を選択したらこうなった、という結果を見せる。 ・分岐2:ダメセリフの後に主人公たちはこうすればよかった、というものを児童に考えさせる。</p> <p>【(問いかけ9)の解答例】 【行動】早く避難 【理由】災害はすぐそこに迫っている。ここは危ない。</p> <p>【趣旨】日頃から災害のリスクを認識して、いざということには、すぐに行動しないと、災害の危険はすぐにやってくることに気づかせる。予め避難のタイミングを決めておく必要があることに気づかせる。</p>
<p>9</p> <p>・避難のタイミングについて理解させる。</p>	<p>(問いかけ10) 主人公のおじいさんは、歩くのに時間がかかるので、安全に避難するためには早めに避難しなければなりません。 このように、避難に時間がかかる人には他にどのような人がいるでしょうか。 周りの人と話し合みましょう。(自由記述) →避難に時間がかかる人が家族にいる場合、警戒レベル3(高齢者等避難)で避難を開始する。それ以外の場合、警戒レベル4(避難指示)で避難を開始する。ということを示す。(警戒レベルの説明をする。)</p> <p>(問いかけ11) あなたの家族には、避難に時間がかかる人はいますか。 いる ・ いない(選択)</p> <p>(問いかけ12) では、あなたの家族はどのタイミングで避難を開始したらいいと思いますか。 警戒レベル3 ・ 警戒レベル4(選択)</p>	<p>【このページの位置付け】 (問いかけ9)で想定される児童の答え(早く避難する)に対応するワークページ</p> <p>【ページ構成のイメージ】 ① 避難に時間がかかる人にはどのような人がいるか考えさせる。 ② 自分の家族に避難に時間がかかる人がいるか考えさせる。 ③ 自分の家族の避難のタイミングを考える。</p> <p>【趣旨】いつ避難すべきか、を考え、行動する際に、市や町が出す「避難情報(警戒レベル)」が有効であることを理解させる。また、自分の家族や親戚などが安全に避難できるタイミングはいつになるのか考えること、家族で話し合うことが大切であることに気づかせる。</p>

10	<p>・早く避難しないとどうなる可能性があるのかを理解させる。</p>	<p>一家で避難開始。 (父)「足元が水で見えなくて危ないから車で避難しよう。」 (母)「そうしましょう。」</p> <p>10分後 崖の近くの道 (母)「水が深いわね」 (父)「あれ、車が動かない…」 (主人公、母、祖父)「ええっ!？」</p> <p>車のすぐ前に土砂が流れ込んでくる。 (一同)「うわあああああああああ」</p> <p>(父)「危なかった…。ここはまたいつ崖崩れが起きるか分からないな。仕方ない、車を置いて歩いて避難するか。」 (母)「あれ、水で車のドアが開かないわ!」 (父)「本当だ…じゃあ窓から外に出ようか。」 (祖父)「わしは窓から出るのは難しそうじゃ…」 (母)「おじいちゃんを置いていけないし、ドアが開くようになるまで待つか、救助を待つしかないから…」 (主人公)「こわいよう…」 (祖父)「こわい思いをさせてすまん…」</p>	<p>【このページの位置付け】 事前の準備及び早く避難することの重要性に気付かせるためのストーリー</p>
11	<p>・風水害の危険が迫っている時には早めの避難が重要だということを認識させる。 ・広島県は風水害が起りやすい場所であることを認識させる。 ・なぜ広島県では風水害が起りやすいのか理解させる。 ・これまでに広島県でどのような風水害の被害があったのか認識させる。</p>	<p>【ストーリーパートと知識パートのつなぎ】 (先生)「〇〇さん(主人公)一家は、この後運良く救助されました。しかし、場合によっては取り返しのつかないことになっていたかもしれません。大雨や台風などから命を守るためには、日頃から災害への備えをしておき、いざということには、危険な場所から <u>安全</u> な場所にはやく <u>避難</u> することが大事です。」(穴埋め)</p> <p>【知識1】 (先生)「強い風や激しい雨で起こる災害のことを、風水害と言います。」 次のことをP11～P13で先生が説明する(順不同)。自然な流れになるよう工夫すること。 ・広島県は土砂災害が起りやすいという説明(危険な場所が全国で一番多い) ・広島県で土砂災害が起りやすい理由(まさ土、山のすぐそばに住宅地) ・これまでに広島県で起こった災害(写真を複数枚使用する)(土石流、崖崩れ、川の氾濫、高潮) ・ハザードマップについての説明 ・実際の被災写真とハザードマップを重ね合わせたものの紹介</p>	<p>【このページの位置付け】 ・早く避難することが大事であることを再確認させるストーリー ・児童が被災の話想像の話ではなく現実の話として捉えるための橋渡し ・風水害についての知識の説明</p>

12	<p>・広島県は風水害が起こりやすい場所であることを認識させる。 ・なぜ広島県では風水害が起こりやすいのか理解させる。</p>	<p>【知識2】(P11【知識1】の続き) 次のことをP11～P13で先生が説明する(順不同)。自然な流れになるよう工夫すること。 ・広島県は土砂災害が起こりやすいという説明(危険な場所が全国で一番多い) ・広島県で土砂災害が起こりやすい理由(まさ土、山のすぐそばに住宅地) ・これまでに広島県で起こった災害(写真を複数枚使用する)(土石流、崖崩れ、川の氾濫、高潮)</p>	<p>【このページの位置付け】 ・風水害についての知識の説明</p> <p>【このページの内容】 ・風水害について ・広島県の風水害について</p> <p>・どこかのページで自助、共助、公助についても、説明を盛り込むことが望ましい。 ※構成は県担当者と協議して決めること。</p>
13	<p>・これまでに広島県でどのような風水害の被害があったのか認識させる。</p>		
14	<p>・実際の被災者の証言から、なぜうまく避難できないのかを理解させる。</p>	<p>(先生)「実は、〇〇さん(主人公)以外にも、大雨の時にうまく避難できなかった人たちがいます。その人たちの体験談を見てみましょう。」</p> <p>【私たちはなぜうまく避難できないのだろう】証言をいくつか抜粋して掲載する。</p>	<p>【私たちはなぜうまく避難できないのだろう】は(別紙5)を参照</p>
15	<p>・ハザードマップの見方(意味と使い方)を理解させる。</p>	<p>・ハザードマップの意味と使い方の説明 ・実際の被災写真とハザードマップを重ね合わせたものの紹介</p> <p>(問いかけ13)実際にあなたの家の周りが雨や風で危ない時には、どこに避難すれば安全かを考えてみましょう。(自由記述) ※ハザードマップポータルサイトHP、避難所・避難場所検索サイトのQRコード等を掲載する。また、避難情報は「広島県防災Web」で確認できることも案内する。</p> <p>(キャラクター)「普段から考えておくことが大事だよ」</p> <p>(コラム) (先生)「家から避難所までどこを通ったら安全に避難できるかも考えておきましょう。」</p>	<p>イメージ 現行教材の風水害高学年P28を参考として、児童がより前向きに取り組みやすいものとする。</p> <p>【(問いかけ13)の中で参考としてQRコードを掲載するホームページのURL】 ・ハザードマップポータルサイト(重ねるハザードマップ…ハザードマップと避難所・避難場所を一緒に見ることができる) https://disaportal.gsi.go.jp/ ・広島県「みんなで減災」はじめての一步 避難所・避難場所検索 https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/search/ ・広島県防災Web http://www.bousai.pref.hiroshima.jp/?p=top</p>

16	<p>・自分の家の周りの危険、避難の準備、避難のタイミング、避難する場所を家族で考えて決めて、風水害に備える。</p>	<p>家族と一緒に作成するマイ・タイムラインシート(仮称) (※ 名称、内容は別途検討) ※全体構成は県担当者と協議して決めること。</p> <p>【マイ・タイムラインシートの要素】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の家の周りにはどのような危険があるか。 ・持出品として何を準備しておくか。 ・避難する直前に何を準備するか。 ・いつ避難を開始するか。 ・どこに避難するか。 <p>・家族で決めた避難所まで、どの道を通って避難をするか、家族で決めておきましょう。 そして、決めた道を実際に歩き、安全に避難できるか、また、避難にどのくらい時間がかかるかを確認しておきましょう。</p>	<p>【このページの位置付け】</p> <p>家族と一緒に作成するマイ・タイムラインシート(仮称) ※ 名称・内容については別途検討予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここまで学んだことを活かしながら、児童とその家族が取り組むことができるような工夫をすること。 ・P16は切り取り線をデザインに含める。切り取り線に沿ってはさみで切り取ることで1枚のシートとしても活用できるようなレイアウトにすること。
----	---	---	---

地震 低学年 新教材構成素案

ページ	学習の目標	内容	摘 要
1 (表紙)			【表紙イメージ】 ・教材の趣旨に沿っている。 ・他の3つの新教材の表紙と統一感がある。 ・児童、保護者、職員の印象に残りやすい。

2	<p>・地震が起きた時に身近な場所・物がどうなるかを認識させる。 ・事前にできる準備について考えさせる。 ・地震が起きた時にどこでどのような行動をとったら安全かを理解させる。</p>	<p>標題の例「どこが危ないかな？」 「大きな地震が起きたらどこが危ないかを考えてみよう」 ・「自宅の風景」と「学校の風景」「小学生やその家族がよく行く場所の風景」の平常時の様子をイラストで複数示す。イラストの中には主人公とその家族等が登場する。</p> <p>(問いかけ1) イラストの中で、地震が起きたら危ないと思う部分に○をつけましょう。 (問いかけ2) なぜそこに○をつけたのか、理由を周りの人と話し合ってみましょう。周りの人の話を聞いて、危ないと思う場所が追加であれば、そこにも○をつけましょう。</p>	<p>【キャラクターについて】 ※風水害低学年の新教材と一貫したキャラクターとする。 ・主人公(小学生)とその家族(例:父、母、祖母)、先生のキャラクターが登場する。 ・広島県防災キャラクターのタスケ三兄弟を登場させることは可とする。 ・必要に応じて追加でキャラクターを登場させることは可とする。 【主人公の家の周りの設定】 ※風水害低学年の新教材と一貫した設定とする。 ・家の近くに山、崖、川、海がある。 ※「家の近く」とは、自宅に少なくとも ①土石流または崖崩れの被災リスク、②川の氾濫のリスク、③津波の被災リスク があり、且つ自宅から小学校まで一番近い道を通ると、山、崖、川、海に関する被災リスクを網羅している状態とする。 (例:自宅に土石流、川の氾濫、津波の危険あり。自宅から小学校までの一番近い道に崖崩れ、川の氾濫の危険あり。) ・家の標高は低い。 ・家の近所に公園がある。公園の標高は低い。 ・家から少し離れた場所に主人公が通う小学校がある。小学校の標高は高い。 ・小学校は風水害、地震・津波のいずれでも避難所となっている。 ・家から小学校までの一番近い道は危険である。 ・家から小学校までの遠回りの道は安全である。 ・近所(同じ地域)に高学年の新教材の主人公(低学年の主人公と同じ小学校に通う年上の小学生又は同級生)が住んでいる。 ※ 設定した主人公の家について、低学年の教材では主人公の家である旨の説明はなくても可とする。</p> <p>【このページの構成等のイメージ】 ・小学生にとって身近な場面のスナップショットを複数種類掲載する。 児童は左右のページに掲載されているイラストを見比べながら問いかけに解答していく。 解答方法は自由記載ではなく○をつけることを基本とする。</p>
3		<p>標題の例「こんなとき、どう行動したらいいかな？」 「大きな地震が起きたらどうしたらいいかを考えてみよう」</p> <p>・「自宅の風景」と「学校の風景」「自分や家族がよく行く場所の風景」の地震発生時の様子をイラストで複数示す。(4ページ目と対応させたイラスト) イラストの中には主人公とその家族等が登場する。</p> <p>(問いかけ3) 4ページで○をした部分はどうなりましたか。周りの人と話し合って確認しましょう。 (問いかけ4) 4ページで○をしていなかった部分で、危ないと思う場所が追加であれば、その場所も4ページに○をしましょう。</p> <p>(問いかけ5) イラストの中で、どの行動をしている人が安全だと思うか○をつけましょう。 (問いかけ6) ○をつけた部分について、なぜその人が安全だと思ったか(なぜ他の人は安全ではないと思ったか)、周りの人と話し合ってみましょう。</p>	<p>【イラストについて】 ・可能な限りイラストを盛り込む。</p> <p>【自宅の風景の要素(例)】 ※ イメージ概要 ①台所(食器棚、ガスコンロなど)のある居間 ②タンスのある寝室 ③本だなのある自室 等 (そのときの行動や事前にできる準備(例)) ①ガスコンロの対処法、テーブルの下に隠れる、できるだけ居間の中央にいる 食器棚を固定する突っ立て棒、固定器具、自動消火コンロ等 ②ベッドの下に隠れる、布団をかぶってダンゴムシのポーズ タンスに突っ立て棒、固定器具等 ③机の下に隠れる、本棚に突っ立て棒、固定器具等</p> <p>【学校の風景の要素(例)】 ※ イメージ概要 ④主人公が学校で授業をうけているイラスト(本棚、窓ガラス、机等) (そのときの行動や事前にできる準備(例)) ④机の下に隠れる(安全行動1-2-3のイラストも活用) (大きな棚、窓ガラスから離れる等)</p> <p>【自分や家族がよく行く場所の風景の要素(例)】 ※ イメージ概要 ⑤学校の通学路(ブロック塀、自動販売機、窓ガラス等) ⑥家族がよく行くスーパー(商品棚等) ⑦他にも自分がよく行く場所 ※自由記載欄(絵、文字、写真を貼る等) (その場所での行動や事前にできる準備(例)) ⑤ダンゴムシのポーズ、建物、ブロック塀、窓ガラス等から離れる等 ⑥ダンゴムシのポーズ、商品棚から離れる等 ⑦自由記載欄</p>

4	<p>・広島県で起こり得る地震・津波災害について知る(その1)</p>	<p>【今後のこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ地震ってなに？(現教材を参考に広島大学防災減災研究センター監修で作成) ・南海トラフ地震で起こり得る被害想定(同上) ・こんな時はためらわず避難するということを示す。(例) <ul style="list-style-type: none"> ・建物が崩れそうな時 ・崖や斜面が近くにある時 ・近くで火災が起きた時 	<p>【このページの構成等のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①先生のキャラクターが南海トラフ地震について説明する。 ②先生のキャラクターがどんな時に避難する必要があるか説明する。
5	<p>・広島県で起こり得る地震・津波災害について知る(その2)</p>	<p>【これまでのこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ地震以外の地震についての解説 過去に広島県で起こった事例または広島県外で起こった代表的な事例の中から、地震及び津波の被害が小学生にとって理解しやすい画像を使用し、地震について解説する。 例: 芸予地震、東日本大震災等 (広島大学防災減災研究センターの知見を活かして新たに作成) 	<p>【このページの構成等のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生のキャラクターが南海トラフ地震以外の地震について説明する。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・津波警報等が発表された時にどのような場所に避難すれば安全かを理解させる。 ・津波警報等が発表された時に、何に気を付けて避難すればいいかを理解させる。 	<p>(問いかけ7)これから津波がきます。あなたならこの中のどこに避難しますか。1つ選んで○をしましょう。イラストの地図の中にいくつかの建物を配置。イラストの中から選択させる。(選択肢)標高が高い学校(正解)、標高が低い公園、標高が低い家 等</p> <p>(問いかけ8)なぜそこに避難しようと思いましたか。周りの人と話し合しましょう。</p> <p>(問いかけ9)これから津波がきます。あなたは今、海の近くの公園にいます。高い場所にある学校に避難することにしました。この中で、避難する時に近くを通ると危ないと思うところに○をしましょう。</p> <p>(問いかけ10)あなたならどこを通過して避難しますか。1つ選びましょう。イラストの地図で、主人公が公園にいるイラストと、小学校のイラストと、そこに至るまでの道を複数パターン示す。</p> <p>正解以外の道には、それぞれ危ない要素を入れる。(危ない要素の例)ブロック塀が崩れている、自動販売機が倒れている、窓ガラスが割れている 等</p>	<p>【このページの構成等のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①どのような場所に避難すればよいか考える。 ②どのようなことに気をつけて避難すればよいか考える。 <p>※イラストの地図は、風水害及び地震高学年の新教材と一貫した設定の地図とすること。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・津波の危険情報(津波警報や津波注意報)を知る。 ・津波警報等が発表された時にどのような行動をとったら安全かを理解させる。 	<p>(津波についての知識の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな地震が起きるとその後津波がくる。 ・海の近くで地震の揺れを感じたり、津波警報等が発表されたら、すぐに高い場所に避難しなければならない ・津波警報が解除されるまでは絶対に戻ってはいけない。 ・津波警報が出たら家族を待たずにそれぞれが避難する。 ・避難する時に気を付けるものを示す。(例:ブロック塀、自動販売機、窓ガラス、看板 等) 	<p>【このページの構成等のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生のキャラクターが津波及び津波からの避難に関する知識について解説する。

8	<p>・事前に行える準備について考えさせる。</p>	<p>【家族で避難を考えるシート(仮称)】(※ 名称、内容は別途検討)</p> <p>(避難する場所) どこに避難するかを家族で決めて書きましょう。 ・「広島県防災WEB」、津波ハザードマップ、「高潮・津波災害ポータルひろしま」、「避難所・避難場所検索」のQRコードを掲載する。 ・津波ハザードマップの確認方法を3ステップ程度で解説(どのハザードマップを掲載するかは要検討)</p> <p>(記入欄) ・地震・津波に対応した避難場所 (「地震が起きた時に〇〇にいたら△△に避難する」というのをいくつか記載できるようにする。) ・安全確保ができた後の集合場所 ・連絡方法(電話が使えなかったらどうする?等の追加の問いかけも可。)</p> <p>(持出品・備蓄品) ・主人公家族が、それぞれ自分や家族が必要なものを言う。 主人公:携帯ラジオ、ほか(別途指示) お父さんとお母さん:水や食料、ほか(別途指示) おばあちゃん:クスリ、杖、ほか(別途指示) 先生が、なぜそれが必要なのかをそれぞれ解説する。</p> <p>・あなたなら何を持って避難しますか。(〇をする又は自由記載) (代表的な持出品や備蓄品に丸を付けられるようにする、又は広島県ホームページのQRコードつけて自由記述)</p>	<p>【このページの構成等のイメージ】 ①地震の時にどこに避難するかを家族で決める。 ②持出品は何を準備しておくかを家族で考える。</p> <p>【避難する場所を決めるための参考サイトのURL】 ・広島県防災Web http://www.bousai.pref.hiroshima.jp/?p=top ・ハザードマップポータルサイト https://disaportal.gsi.go.jp/ ・高潮・津波災害ポータルひろしま https://www.takashio.pref.hiroshima.lg.jp/portal/top.aspx ・広島県「みんなで減災」はじめての一步 避難所・避難場所検索 https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/search/</p> <p>【持出品を考えるための参考サイトのURL】 広島県ホームページ 広島県「みんなで減災」はじめての一步 https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/prepare/goods.html</p> <p>・P8は切り取り線をデザインに含める。切り取り線に沿ってはさみで切り取ることで1枚のシートとしても活用できるようなレイアウトにすること。</p>
---	----------------------------	--	---

地震 高学年 新教材構成素案

ページ	学習の目標	内容	概要
1 (表紙)			<p>【表紙イメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の趣旨に沿っている。 ・他の3つの新教材の表紙と統一感がある。 ・児童、保護者、職員の印象に残りやすい。
2	<p>・地震はいつ、どこで起こるか分からないことを認識させる。</p> <p>・地震が起きた時にどこでどのような行動をとったら安全かを考える力を養わせる。</p>	<p>【ストーリー】</p> <p>(ストーリー0) (テレビ)緊急地震速報が流れる。 (主人公)家のリビングで一人でテレビを見ている。慌てる。</p> <p>(欄外) 登場人物の紹介。 登場人物の例:家族(主人公、父、母、祖父)、友人 紹介の例:父…主人公のお父さん。海の近くの会社で働いている。</p>	<p>【全体的なこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本や漫画等のイメージでストーリーを展開していく。 ・小学生が一人の状況を設定。 ・地震パートと津波パートで構成。 <p>【キャラクターについて】 ※風水害高学年の新教材と一貫したキャラクターとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公(小学生)とその家族(例:父、母、祖父)、先生のキャラクターが登場する。 ・低学年の新教材の主人公が、高学年の新教材の主人公の友人(同じ学校に通う近所の年下の小学生又は同級生。家の標高は低い。)として登場する。 ・広島県防災キャラクターのタスケ三兄弟を登場させることは可とする。 ・必要に応じてさらに追加でキャラクターを登場させることは可とする。 <p>【主人公の家の周りの設定】 ※風水害高学年の新教材と一貫した設定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の近くに山、崖、川、海がある。 ※「家の近く」とは、自宅に少なくとも ①土石流または崖崩れの被災リスク、②川の氾濫のリスク、③津波の被災リスクがあり、且つ自宅から小学校まで一番近い道を通ると、山、崖、川、海に関する被災リスクを網羅している状態とする。 (例:自宅に土石流、川の氾濫、津波の危険あり。自宅から小学校までの一番近い道に崖崩れ、川の氾濫の危険あり。) ・家の標高は低い。 ・家の近所に公園がある。公園の標高は低い。 ・家から少し離れた場所に主人公が通う小学校がある。小学校の標高は高い。 ・小学校は風水害、地震・津波のいずれでも避難所となっている。 ・家から小学校までの一番近い道は危険である。 ・家から小学校までの遠回りの道は安全である。 ・近所(同じ地域)に、低学年の新教材の主人公(同じ学校に通う近所の年下の小学生又は同級生)が住んでいる。 ※ 高学年の教材では、地図中の主人公の家及び町を舞台にしたストーリーで、風水害及び地震・津波の危険を説明する。
3		<p>(ストーリー1)揺れている時の行動 リビング全体のイラストを示す。</p> <p>(主人公)「こうしようかな」(例:食器棚の近くのテーブルの下に隠れようかな)…セリフ① (主人公)「(思い直して)うーん、どうすればいいんだろう…」 (児童)「私ならこうする」(自由記述)…アドバイス①</p>	<p>【このページの位置付け】 地震で揺れている時にどう行動したらいいか考えさせるためのストーリー</p> <p>【ページ構成のイメージ】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ストーリー ② 主人公がダメな行動を思い浮かべる ③ 主人公が考え直す ④ 「主人公はこうすればいいのではないか」という視点で、児童にアドバイスさせる。 <p>【リビングの要素の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーブルのすぐ近くに食器棚がある。(→テーブルの下にいと危険) ・棚の固定は一切していない。 ・リビングのどこかに「安全ゾーン」(家具が転倒、落下、移動してこない場所)を設定しておく。 など <p>【主人公の状況の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーブルまでの距離及び「安全ゾーン」までの距離が同程度の場所にいる。 <p>【想定される解答例】 リビングの真ん中の何も無い場所で頭を抱えてしゃがもう。</p>

4	<p>・地震の揺れによってどんなことが起きるのか理解させる。 ・揺れている時の正しい行動にはどのようなものがあるのか理解させる。 ・自分の状況によって揺れている時の正しい行動が異なることを理解させる。</p>	<p>P3の解答を示す。 ・セリフ①のとおり行動した場合にどうなるか(例:食器棚が倒れてきてケガをする) ・このシーンにおける正しい行動(例:棚から離れた場所でダンゴムシのポーズをする) ・その他揺れている時の行動についての知識(安全行動1-2-3(大事だと強調する)、ダンゴムシのポーズ、家具が転倒・落下・移動してこない場所にいる(東京消防庁参照)、慌てて外に出ない等) ※ 自分がいる場所や部屋のレイアウトによって、安全な行動は異なることに気づかせる。(外にいる時など、他のシチュエーションについても示すことも可とする。) ・追加の問いかけ又はメッセージの投げかけ 例:自分の家で地震が起きた時、危ないところと安全なところをそれぞれ考えてみましょう。</p>	<p>【このページの位置付け】 ・前のページの解答</p> <p>【このページの内容】 ・誤った行動をとったらどうなるか ・正しい行動はどんな行動か ・地震で揺れている時の行動に関する知識 ・家具の「転倒」「落下」「移動」が発生しない場所を予め確認しておくことが必要 ・自分の家の安全な場所はどこになるのか、確認しておくことが必要</p> <p>【東京消防庁の資料のURL】 ※ 掲載の許可済 家具の「転倒」「落下」「移動」についての解説(ピクトグラムあり) 出典:東京消防庁 家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブックより https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/hp-bousaika/kaguten/handbook/all.pdf</p>
5	<p>・地震の揺れが収まった直後にどのような行動をすればいいか理解させる。</p>	<p>(ストーリー2)揺れが収まった後の行動 揺れが収まる。家の中のものが散乱している。テレビは倒れていて見るができないが、主人公の住む広島は震度6弱の揺れを観測している。 (主人公) 呆然とする。</p> <p>次にとるべき行動 (主人公)「こうしようかな」(例:部屋の片づけをする)…セリフ② (主人公)「(思い直して)うーん、まずはどうしたらいいんだろう…」 (児童)「私ならこうする」(自由記述)…アドバイス②</p>	<p>【このページの位置付け】 地震の揺れが収まった後にどう行動したらいいか考えさせるためのストーリー</p> <p>【ページ構成のイメージ】 ① ストーリー ② 主人公がダメな行動を思い浮かべる ③ 主人公が考え直す ④ 「主人公はこうすればいいのではないか」という視点で、児童にアドバイスさせる。</p> <p>【リビングの状況】 ・物が散乱している</p> <p>【想定される解答例】 ・部屋のドアを開けよう。 ・火元を確認しよう。</p>
6	<p>・地震の揺れが収まった直後にどのような行動をすればいいか理解させる。</p>	<p>P5の解答を示す。 ・セリフ②のとおり行動した場合にどうなるか(例:部屋の片づけをしていたら余震がきて棚から物が落ちてきてケガをする) ・正しい行動(例:部屋のドアを開ける、火元を確認する。) ・その他揺れが収まった後の行動についての知識 (例:持出品を確認する、家の中が危ないと感じたら慌てず注意しながら外に出る。) ・こんな時はためらわず避難するということを示す。 (例) ・建物が崩れそうな時 ・崖や斜面が近くにある時 ・近くで火災が起きた時</p>	<p>【このページの位置付け】 ・前のページの解答</p> <p>【このページの内容】 ・誤った行動をとったらどうなるか ・正しい行動はどんな行動か ・地震の揺れが収まった後の行動に関する知識</p>
7	<p>・津波がくる可能性がある場所にいる時にはどのような場所に避難しなければならぬかを理解させる。</p>	<p>(ストーリー3)津波警報等が出た時の行動-1 余震が起きる。主人公は家で一人であるのが怖くなり、近所の公園(標高低い)に行く。 公園で偶然友人(例:同じ学校に通う近所の年下の小学生又は同級生。家の標高は低い。)と出会う。 (防災無線)津波警報</p> <p>次にとるべき行動 (友人)「えええ、どうしよう…」 (主人公)「よく分からないし、とりあえずこのまま公園にいたらいいかな…(セリフ③)」 (児童)「私ならこうする」(自由記述)…アドバイス③</p>	<p>【このページの位置付け】 津波警報等が出た時にどう行動したらいいか考えさせるためのストーリー -1</p> <p>【ページ構成のイメージ】 ① ストーリー ② 主人公がダメな行動を思い浮かべる ③ 「主人公たちはこうすればいいのではないか」という視点で、児童にアドバイスさせる。</p> <p>【周囲の状況】 ・公園には主人公と友人(例:同じ学校に通う近所の年下の小学生又は同級生。家の標高は低い。)がいる。</p> <p>【想定される解答例】 ・(高台にある)小学校に逃げよう。</p>

8	<p>・津波がくる可能性がある場所にいる時の行動を理解させる。</p>	<p>P7の解答を示す。 ・セリフ③のとおりに行動した場合にどうなるか(例:公園に津波が迫ってくる) ・正しい行動(高台の学校に避難開始) ・その他津波からの避難についての知識-1(早く高い場所に避難することが大事)</p>	<p>【このページの位置付け】 ・前のページの解答</p> <p>【このページの内容】 ・誤った行動をとったらどうなるか ・正しい行動はどんな行動か ・津波警報等が出た時の行動に関する知識</p>
9	<p>・津波がくる可能性がある場所にいる時にはとにかく早く高い場所に逃げるのが大事であると理解させる。</p>	<p>(ストーリー4)津波警報等が出た時の行動-2 (近所の中学生)主人公たちに向かって「津波がくるぞー！早く高いところに避難しなさい！」 主人公たちはみんなで高台の小学校に避難することを決めた。 町の地図再掲。(風水害の教材と共通の地図) 地図の中で、主人公たちがいる場所を明示する。</p> <p>次にとるべき行動 (友人)「ちょっと待てよ、家族は大丈夫かな…。家族を探しに行こうかな。(セリフ④)」 (主人公)「私もお父さんの会社が海の近くだから心配だな…。」 (児童)「私ならこうする」(自由記述)…アドバイス④</p>	<p>【このページの位置付け】 津波警報等が出た時にどう行動したらいいか考えさせるためのストーリー -2</p> <p>【ページ構成のイメージ】 ① ストーリー(「釜石の奇跡」をイメージ) ② 主人公がダメな行動を思い浮かべる ③ 「主人公たちはこうすればいいのではないか」という視点で、児童にアドバイスさせる。</p> <p>【「釜石の奇跡」をストーリーのイメージとして用いる趣旨】 次のことを児童に理解させる。 ① 自分が積極的に避難することが周りの人の避難を誘発し、命を救うことにつながる。 ② 家族を心配して探していると、津波に巻き込まれて自分の命を失う危険性がある。 ③ 地震発生時はいつも使っている連絡手段(電話等)が使えない可能性があり、家族を探す・家族と連絡をとるのが難しいことが想定される。 よって、津波がくる時には家族を信じてとにかく早く避難することが正しい。</p> <p>【周囲の状況】 ・地域の人たちが高台の小学校に向かって避難している。</p> <p>【想定される解答例】 ・家族を信じて自分たちだけで小学校に逃げよう。</p>

10	<p>・津波がくる可能性がある場所にいる時にはどのような場所に避難しなければならぬかを理解させる。</p>	<p>P9の解答を示す。 ・セリフ④のとおりに行動した場合にどうなるか(例: 家族を探しているところに津波が迫ってくる) ・正しい行動(例: 高い場所や高いビルに逃げる) ・その他津波からの避難についての知識-2(例: 津波てんでんこの紹介)</p>	<p>【このページの位置付け】 ・前のページの解答</p> <p>【このページの内容】 ・誤った行動をとったらどうなるか ・正しい行動はどんな行動か ・津波警報等が出た時の行動に関する知識</p>
11	<p>・避難について事前に家族と話し合っておく重要性を理解させる。</p>	<p>(ストーリー-5) 主人公たちは小学校に避難した。 町には津波が来たが、主人公たちは避難していて助かった。 家族と連絡がとれない。 (主人公)「みんな無事かな。どこに避難しているんだろう。」 (主人公)「食べ物も持ってないし、どうしよう…」</p> <p>(問いかけ) 今回主人公は無事助かりましたが、迷ったり困ったりしないようにするためにはどうしておけばよかったですか。(自由記述)</p>	<p>【このページの位置付け】 家族と事前に避難する場所や連絡方法について考え、持出品などを準備しておくことが重要だと理解させるためのストーリー</p> <p>【ページ構成のイメージ】 ① ストーリー ② 問いかけ(主人公がどうしておけばよかったですか)</p> <p>【周囲の状況】 ・主人公たちは避難所の小学校のグラウンドにいる。 ・主人公は家族と連絡が取れず、家族がどこにいるのかわからない。 ・結果的に津波は来たが、主人公は助かった。 ※ 最終的には家族は全員助かり、避難所で落ち合える想定(例: 最終ページなどに家族で落ち合えた状況を描く、など)</p> <p>【想定される解答例】 ・避難する場所を決めておけばよかったです。 ・集合する場所を決めておけばよかったです。 ・連絡方法を決めておけばよかったです。</p>
12	<p>・今後広島県で起こり得る地震・津波災害について知る。</p>	<p>地震に関する知識-1(※ 次の内容は例であり、具体的には県担当者と相談・調整すること。) (南海トラフ地震について) ・南海トラフ地震ってなに?(現教材を参考に広島大学防災減災研究センター監修で作成) ・南海トラフ地震で起こり得る被害想定(同上)</p>	<p>【このページの内容】 ・地震に関する知識-1 これから起こると想定されている南海トラフ地震についての説明</p>
13	<p>・これまでに起こった地震・津波災害について知る。</p>	<p>地震に関する知識-2(※ 次の内容は例であり、具体的には県担当者と相談・調整すること。) (これまでに起こった地震について) 過去に広島県で起こった事例または広島県外で起こった代表的な事例の中から、地震の被害が小学生にとって理解しやすい画像を使用し、地震について解説する。 例: 芸予地震、東日本大震災等 (広島大学防災減災研究センターの知見を活かして新たに作成)</p>	<p>【このページの内容】 ・地震に関する知識-2 これまでに起こった地震とその被害の状況についての説明</p>

14	津波の危険情報(津波警報や津波注意報)等、津波に関する知識を身につけさせる。	<p>津波に関する知識(※ 次の内容は例であり、具体的には県担当者と相談・調整すること。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島県で想定される津波の被害について ・海の近くで地震の揺れを感じたり、津波警報等が発表されたら、早く高い場所に避難する。 ・津波警報が出たら家族を待たずにそれぞれが避難する。 ・津波警報が解除されるまでは絶対に戻ってはいけない。 ・津波ハザードマップの確認方法を3ステップ程度で解説する。(どのハザードマップを掲載するかは要検討) ・津波避難場所、津波避難ビル、津波注意、津波が来るところ、津波フラッグといったマーク等の説明をする。 <p>→「自分の近くの津波避難場所等について調べてみよう」など 先生キャラクターが、避難所の候補は広島県防災WEB(QRコード掲載)で予め確認して決めておくようアドバイスする。</p>	<p>【このページの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波に関する知識 <p>【掲載するQRコードのURL】</p> <p>広島県防災Web http://www.bousai.pref.hiroshima.jp/?p=top</p>
15	家族で地震・津波災害への備えに取り組む。	<p>家族と一緒に作成するマイ・タイムラインシート-1(仮称)(※ 名称、内容は別途検討)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難する場所 ・家族の集合場所 ・家族の連絡の取り方 ・連絡手段の説明(災害用伝言板、災害用伝言ダイヤルの使い方等) <p>・主人公が家族と落ち合えたイラストを掲載する。</p>	<p>【このページの内容】</p> <p>家族と一緒に作成するマイ・タイムラインシート(仮称) とっさの判断のために事前に確認しておくこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難する場所 ・家族との連絡方法
16	家族で地震・津波災害への備えに取り組む。	<p>家族と一緒に作成するマイ・タイムラインシート-2(仮称)(※ 名称、内容は別途検討)</p> <p>【タイムライン項目①】</p> <p>(問いかけ) 地震発生から避難するまでに持出品の準備をする時間はたくさんあるでしょうか。 ある ・ ないかも (問いかけ) では、普段からどうしておくことが大事でしょうか。(自由記述)</p> <p>(問いかけ) 地震発生後、電気は使えるでしょうか。 使える ・ 使えないかも (問いかけ) では、何を準備しておくといいでしょうか。(自由記述)</p> <p>(問いかけ) 地震発生後、水道は使えるでしょうか。 使える ・ 使えないかも (問いかけ) では、何を準備しておくといいでしょうか。(自由記述)</p> <p>(問いかけ) 他にも準備しておくいいものを考えましょう。(自由記述)(広島県ホームページ 広島県「みんなで減災」はじめの一歩 のQRコード掲載)</p> <p>(問いかけ) 自分の家の中にある危ない場所やものを見つけましょう。見つけた場所やものについて、どのような対策をしたらいいか考えましょう。(自由記述) 危ないかどうかの判断のポイント:家具が転倒、落下、移動してこないか(東京消防庁参照)</p>	<p>【このページの内容】</p> <p>家族と一緒に作成するマイ・タイムラインシート(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持出品、備蓄品 ・家の中でできること <p>【掲載するQRコードのURL】</p> <p>広島県ホームページ 広島県「みんなで減災」はじめの一歩 https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/prepare/goods.html</p> <p>・P16は切り取り線をデザインに含める。切り取り線に沿ってはさみで切り取ることで1枚のシートとしても活用できるようなレイアウトにすること。</p>

私たちは **なぜ**
うまく避難
できない
のだろう



平成30年7月豪雨を体験した
住民たちの証言から考える



私たちはなぜ うまく避難できないのだろう？

平成30年7月豪雨では、広島県内はもとより、広域にわたって洪水や土砂災害などが発生し、避難の遅れ等により多くの犠牲者が出ました。

毎年発生する大規模な風水害。

そのたびに、避難の遅れや避難途上での危険により、多くの尊い人命が失われていきます。

避難行動は命を守るための最も有効な防災行動。
適切に避難できるかどうかで生死が分かります。

行政やマスコミからは、気象情報や避難に関する情報など、
私たちが避難を判断するための情報が伝えられます。

避難することを決め、行動するのは、私たち自身であることは明らか。

なのに、

私たちはなぜ うまく避難できないのだろう？

私たちの何が問題なんだろうか。

どうすればうまく命の危機を回避できるのだろうか。

このシンプルで有効な命を守る行動「避難」について、
約500名の被災地の方々の証言から考えてみました。

1 証言から考える 「うまく避難できなかった理由」

2 いつ逃げる？ 「避難開始を決断するための情報と行動」

3 証言から見えてきた 「こうやってうまく避難した」

4 うまく避難するための 「日頃の備え」

❌ 危険を察知できなかった

きっと自分は大丈夫だと思った。

だって、今までも大丈夫だったから。

玄関へ行ったら既に床の下まで水が…

玄関に行くまで危険なことに気づけなかった。

朝の4時40分頃だったと思うんです。大丈夫じゃないかなと思って安心しきって寝ていたら、「バツ」という音がしてガラスの「バリバリ」という音がしたんです。一瞬でした。石積みの崖が崩れたんです。家が半壊してしまいました。

呉市 60代 女性 2人家族

実際にはがけ崩れが発生して
ようやくわが身の危険に
気づきました

家には犬もいるし、私も年をとっているし、家が流されるようなことはないと思っていたので、外に出ない方がよいと思いました。そんな中、岩が崩れた時はかなりの危機感を感じましたね。

呉市 60代 男性 1人暮らし

ペットもいるし、
自分も歳をとっているし
これまでも大丈夫だった

避難しようとは思わなかったんです。自分が住んでいる所は安全だという認識をしていました。家の下の道路が海ようになっていきましたが、家は浸からないと思いこんでいました。

呉市 60代 男性 3人家族

水害や土砂災害の心配のない
場所だと思い込んでいました

こんなにひどい状況になるとは、頭の中をかすめもしなかったんです。避難するという意識は全くなかったんですね。大雨だけど、時間がたてば通り過ぎるとばかり思っていました。

呉市 70代 女性 3人家族

災害に無関心でした

❌ 避難することを決められなかった

行ったこともない避難所に行くのが億劫だった。
 足の不自由な家族やペットがいるので、
 避難するかどうか迷った。
 一人では避難を決断できなかった…。
 周りの人が避難しないから大丈夫だろうと思った。

避難所に行っても、硬い床で寝るとか、みんなのおしゃべりとか大変ですし、私はトイレが洋式でないと使えないので迷惑をかけてしまうと思ってね。
 家から山も近くないし。川の堤防が切れたらどうにもならないけど、もうなるようにしかならないと思ってました。

福山市 60代 男性 1人暮らし

避難所で滞在するのが不便そうで、避難が億劫でした

「避難準備情報」が出た時点で住民に声かけをしたけども、誰も避難していないという状況でした。もう寝ようと思っていたらすごい音がして裏の崖が崩れました。そのときは何が起きたか分からない状況でした。高齢の母を崖と反対側の部屋に寝かせていました。こんなことが起きるなんて、いままで一切考えたこともありませんでした。

府中市 60代 男性 7人家族

誰も避難していないので避難しませんでした

当時は「今すべきことは何だろう」って、くり返し何度も考えていました。
 自治会長さんから「避難が必要になったら避難してください！」と言われて避難の準備はしたんです。ところが、それから何も連絡が来ませんでした。気軽に避難できる場所が近くにないし。そうこうするうちに避難が遅れてしまったんです。

呉市 60代 女性 1人暮らし

自分だけでは避難を決められませんでした

1階に物を置いておいたら、崩れた時にもしかして…と思って、大事なものはまとめて2階に置いておきました。避難する準備は夜からしてたんですよ。周りの家はみんな電気ついているし、うちだけ避難するか迷いましたね。
 結局、土砂崩れが「ドォーっ」と来て家が壊れた時に、これはやばいと思って、来てくれた消防団の誘導で避難しました。

呉市 60代 男性 3人家族

周りの家が避難していなかったから、私も避難しませんでした

❌ 避難先に行く途中にも、危険があった

車で避難しようとしたが、道路が冠水していて
勢いのある水に流されそうになった。
避難しようとして外に出ると道路に水があふれ、
移動すること自体がとても危険だった。

突然家の中に土砂が入ってきたんですよ。割れた窓ガラスの隙間からどうにか外に出ることができました。その場には危ないと思い、山の中を歩いて近所の家に行き、朝まで過ごしました。避難中は大きな石が流れている上を歩いたり、どんどん水が流れてくる所を歩くことになり、とても危険を感じました。避難しているときは周りには誰もいませんでした。

海田町 70代 男性 2人家族

大きな石が流れてくる、
水がどんどん流れてくる中を
避難しました。
とても危険を感じました

確認しようと思って外に出てみたら道が水に浸かっていたので、避難するしかないと思いました。車で避難したんですが、道に水が溢れていて道路との境目がわからなくなりました。灯りもないので、暗くて、周囲が見えにくくて、移動中はかなり怖い思いをしました。

三原市 30代 女性 3人家族

避難しようとして外に出たら
道路に水が溢れていて、
しかも暗くて怖かったです

空港に避難しようと思って車で移動していたんですね。前を走っていた息子の車が急に止まって向きを変えたので「どうしたのかな？」と思って見たら、向こうから土砂が崩れてきたんですよ。急遽ICに入って、ICのゲートの前に2日間いました。

三原市 70代 男性 7人家族

避難の途中、目の前で
土砂崩れが発生し、
2日間も足止めになりました

3~4kmくらいで1時間くらいかかりましたね。道が渋滞して、もう進まないんですよ。大渋滞でしたね。どうなっているか状況がわからないんですよ。

広島市 70代 男性 3人家族

避難する車が殺到して
大渋滞に
巻き込まれてしまいました

❌ 帰宅経路と自宅の安全性を十分に確認せず帰宅した

雨がやんだので、もう大丈夫だろうと思い

自宅に戻ろうと帰路についたら、
途中で水かさが増してきた。逃げられなかった。

夜になって雨が少しおさまってきたので、いったん様子を見に自宅に帰ろうと帰路につきました。道路を水が流れてたんですね。それで、じゃあこっちを歩いて帰ろうということで別の道を通って帰りました。結局、雨がやまないのもう一度避難所に避難しました。

海田町 60代 女性 3人家族

雨がおさまってきたので
帰路についたら、
道路が冠水していて、
結局避難所に戻りました

翌日、隣の畑の持ち主の方が避難所に迎えに来てくださったので、帰宅することにしました。ところが、自宅に戻る途中、いつも通っていた家のすぐ手前の道が2箇所も通れなくなっていたんです。崩れた畑の土砂が道を全部ふさいでいて、全然通れない状態でした。

三原市 70代 女性 1人暮らし

自宅に戻る途中の道を
土砂がふさいでいて通れなかった

貴重品を家に置いたまま避難してしまったので、家が心配でした。避難した翌日、徒歩で家に行ってみました。まだ水が膝の高さぐらいまで溜まっていたので、水の中をザブザブ歩いて行きましたね。家の周りは水が引いていました。

広島市 50代 男性 2人家族

家が心配だったので、
まだ水が引かないうちに
徒歩で見に行きました

実家に避難していたんですが、19時頃主人と2人で一旦自宅に帰ったんです。そうしたら、川が決壊していて水がわーっと来ている状態でした。その時点で家の外に60cmくらい水が溜まっていた、車も入れない状態。大切なものを持っていきかけたので、車を停めて、バシャバシャ歩いて家に行きましたが、家の中に急に水が入ってきて驚きました。

広島市 30代 女性 4人家族

夜、家に戻ってみると
川が決壊して、家の中にも
急に水が入ってきて驚きました

2

いつ逃げる？「避難開始を決断するための情報と行動」

市からの「避難情報」を聞いた時が

「逃げ時」



※必ずしも、この順番で発令されるとは限りませんので注意してください。

☑ 「気象情報」や「避難情報」を手がかりに「避難」する

避難場所への避難に迷ったら、町内会の方や自治体、家族に相談しましょう。
職場や外出先にいる場合、むやみに帰宅や移動せずに近くの安全な場所へとどまりましょう。
警戒レベルが高くなるほど避難が難しくなりますので、早い段階での避難を心掛けましょう。

自分のリスク・状況にあわせて避難しよう！

たとえば

85歳の女性
一人暮らし

避難所で、お友達と話しながら安心して過ごしているの。
あったかいお茶とおにぎり、お漬物も余分に持ってきて正解。周りの人におすそ分け。
外を見ると雨が強くなってきた。早めに避難して、本当によかったわ。

父と母、中学生の
3人と犬1匹の家庭

自宅の周りに大きな被害は出ていない様子。
でも、安心して過ごせたので避難してよかった。
次も早めに避難しよう。

避難スイッチ

ON 事前に登録していた県の防災情報メールから「避難勧告」の発令通知が届いた！
直ぐに、子どもと、犬のポチを連れて、仲の良いママ友の家へ避難。お父さんは帰宅すると危険なため勤務先の近くのホテルへ避難。

土砂災害の危険な場所
に住む5人家族

災害が発生している様子。
裏山はどうだろうか、家は大丈夫かなと心配だけど、一家5人の命だけは大丈夫。

避難勧告が発令されて、避難所にはぞくぞくと地域の人たちが避難してきた。
暗くなってきてから、ずぶぬれで避難してくる人達も。
消防団からの声かけで避難することに決めた人たちもいる様子。

避難スイッチ

ON 自主防災組織の役員の人から避難を呼びかけられた。暗くなる前に、近くに住む友達にも声かけて、一緒に避難。
まだ大雨になる前だから、比較的安全に避難できて一安心。

テレビで天気予報を確認。
あらかじめ用意していた非常用持出品の中身をチェック。持病の薬は忘れずに。
近くに住む友達にも、いざとなったら避難しようと呼びかけよう。

仕事のお父さんに電話して「避難勧告」が出されたら、ママ友の家に避難すると報告。非常用持出品が入ったリュックには、おやつと、ペットのポチのエサも入れた。これで避難の準備はOK。

お父さんは仕事で、ちょっと不安…
スマートフォンで気象情報と行政が発信する避難情報を収集。
安全な地域に住んでいるママ友に電話して、避難させてもらえることに。これで一安心。

避難スイッチ

ON テレビを見ていたら「避難準備・高齢者等避難開始」が発令された。
足の不自由なおじいちゃんを車に乗せて、すぐに避難所に一家5人で避難。雨も小雨のうちに避難できてよかった。

家の裏には山があり、ハザードマップには土砂災害の危険箇所指定されている。
土砂災害の被害を受けないためには、早めの避難が肝心。危険な状況になる前に避難所に避難できるよう、一家5人分の非常持ち出し品を確認。

☑ 逃げ遅れずに、生き残るために「率先避難」

避難勧告等が発令されると、不安の中、みんなが避難しようかどうかと悩んでいます。そんな時、隣近所に声を掛けて率先して避難するあなたの行動が、多くの命を救うことにつながります。勇気をもって避難しましょう！

3

証言から見てきた「こうやってうまく避難した」

☑ 危険を察知して、避難スイッチをON！

居住地の災害リスクを自分ごととして認識していた

今までの経験上、この雨は尋常じゃないと思ったんですよ。これは被害が出てもおかしくないなと。昭和42年の水害が頭をよぎって、またあの時のようになるのではないかと思いましたね。

呉市 60代 男性 2人家族

集会所へ避難

自分は避難するのに時間がかかる人だということを自覚していた

心臓病、足も悪い、糖尿病、高血圧で通院中です。以前から、今度何かあったら避難しなきゃいけないと思っていました。自主避難して皆さんに迷惑かけなかったことが良かったなと思ってますよ。

東広島市 70代 女性 1人暮らし

福祉センターへ避難

近隣の異変を察知し起きる災害をイメージできた

川から独特な土のにおいがしたんですよ。今まで嗅いだことのないような。それで、目の前の川が氾濫するのではないかと思いました。

海田町 40代 男性 3人家族

会社へ避難

☑ 自分で避難を決断する。
避難に迷ったら信頼できる人に相談する。
安全に避難できる「逃げ時」をのがさない！

居住地の災害リスクを自分ごととして認識していた

以前から気象情報を気にしていましたので、金曜日の午後から娘の家へ独自避難しました。当日避難した方は大変だったんです。早めに避難しなきゃダメです。怖い思いをしなくていい避難が一番ですよ。

東広島市 70代 男性 2人家族

娘のところへ避難

自治会長に避難を相談して避難を決めることができた

避難するという頭はあったので、まず老人会の会長さんに連絡しました。その方が区長さんに連絡してくれて、区長さんから私に「福祉センターを避難所に開設したのでそちらに避難して下さい」と連絡がきました。

東広島市 70代 女性 1人暮らし

福祉センターへ避難

隣の人が避難するのを見てわが家も避難しようと決めた

避難を決めたのは、雨がひどく家の周りが川のような状態になっていたことと、周りがみんな避難しはじめたことが大きいですね。

呉市 30代 女性 4人家族

町づくりセンターへ避難

日頃から家で防災の話をしてきた

毎年のように台風の季節は経験しているし、防災に対してどのようにしたらいいか家族で話をするじゃないですか。ここは避難所があっても避難所への道が冠水してなくなってしまふんです。そうしたら早い行動をするしかないですよ。

三原市 60代 男性 2人家族

学校の体育館へ避難

✓ 安全に避難先まで避難する

浸水箇所を迂回。安全なルートを通って避難した

避難しようと思ったら、スーパーの前の道路に水が1mくらいあったので、水に浸かっていない上の道を通って避難しました。

呉市 50代 女性 3人家族

実家へ避難

足の不自由な人と一緒に避難した

車イスが必要な近所の女性の方をどうやって避難させるかをけっこう悩んだんですよ。座れないので、手押し車で避難させるのも難しかったです。水が引いたところをねらって車を隣の家の前につけて、一緒に避難しました。

海田町 70代 男性 5人家族

学校へ避難

浸水しそうな場所を避けて避難した

学校の駐車場に車に入ろうと思ったら、もう水路から水が「ザーザー」流れていました。ここに置くと危ないと思って安全そうな別の場所を探して移動しました。

三原市 60代 女性 2人家族

学校の体育館へ避難

✓ 命を守るために、最善の行動をとる

外に出るのが危険と判断 垂直避難を選択した

道路が冠水していて、とても車で避難所まで行けない状態でした。母親が歩けないので、車が使えないと避難できないんです。なので、まず2階に上がりました。母は平屋に住んでいたのベッドの上にはいました。

海田町 60代 男性 3人家族

自宅の2階へ避難

外に出るのが危険と判断し 近くの安全な場所に避難した

避難所に行こうと思ったんです。でも、あちこち道が壊れて行けなかったので隣の家に避難しました。逃げる時に、ころげかかって服が下着まで濡れてしまいましたが、翌朝までそのままで過ごしました。

三原市 70代 男性 3人家族

隣の家へ避難

✓ 100%安全を確認して帰宅

情報を収集して ルートの安全を確認してから帰宅した

3日後ぐらいに商店街の方をまわれば歩いて行けるという情報をもらったんです。子どもを連れていくのは大変だと思ったので、主人だけが先に行って自宅の安全を確認しました。その後、残りの家族が避難所から自宅に戻り、2階で生活しながら片づけをしました。

呉市 30代 女性 4人家族

町づくりセンターへ避難

4

うまく避難するための「日頃の備え」

Step 1

ハザードマップで危険性を知る

市町が公表している「ハザードマップ」を入手して、自宅や地域にはどのような災害が起きやすいか確認しましょう。

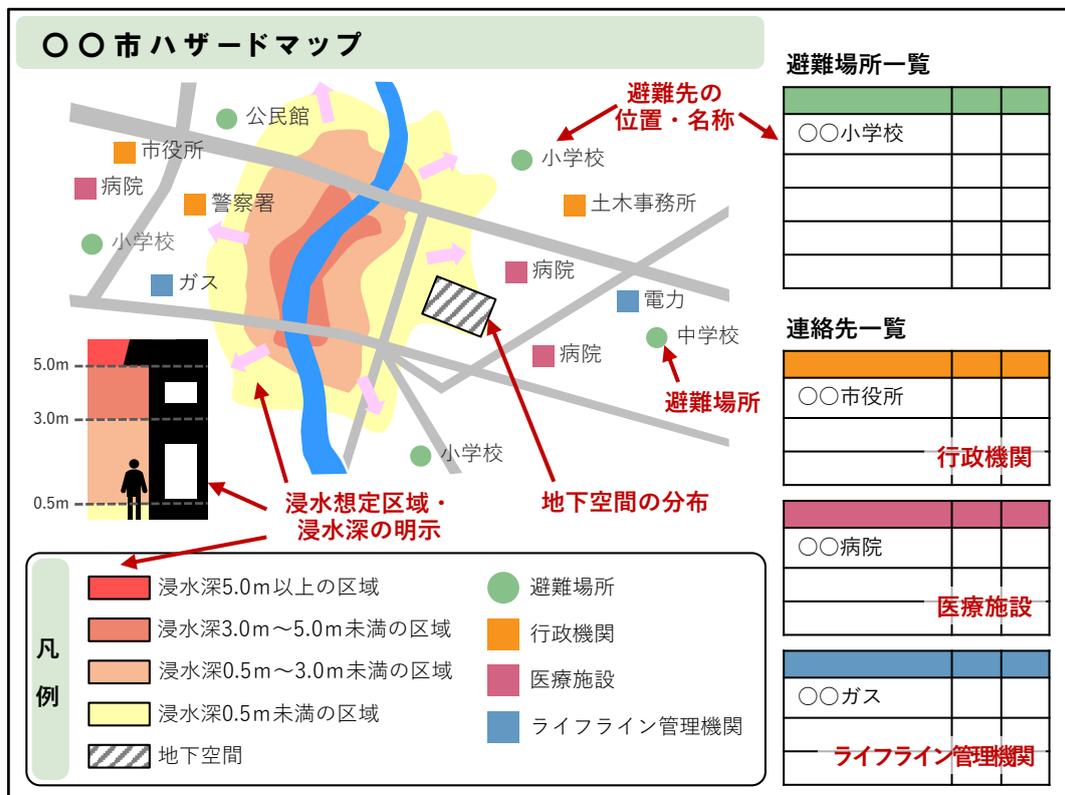
風水害に関するハザードマップは複数あります

- 洪水害（外水氾濫）
- 浸水害（内水氾濫）
- 土砂災害
- 高潮災害

災害リスクは地域によって違います！

ハザードマップは点でなく「面」でみましょう

- 自宅の被害を確認
- 地域の被害を確認
- 避難先の周囲や、避難経路になりそうな地域もあわせて確認



- ・ハザードマップとは、地震や台風・津波など自然災害が起きた時に被害が想定されるエリアなどを表示した地図のことです。
- ・ハザードマップは各市町の窓口やホームページで入手できます。

Step 2 災害を理解し、自宅や地域の被害をイメージする

過去の災害事例等から、被害のイメージを持ちましょう。

豪雨の際には、単独の災害のみならず、平成30年7月豪雨のように、複数の災害（土砂災害と浸水害）が同時に、または時間差で生じることもあります。

また、自宅に、危険が迫った時点で避難場所への避難を考えても、すでに道路は冠水していて避難が不可能な場合もあります。

そのため、豪雨災害の適切なイメージを持つことが必要です。

土砂災害と浸水害の両方が発生した地域の様子 (平成30年7月豪雨 広島県内)

安芸郡坂町小屋浦



土砂の堆積状況



土砂の流出状況



呉市天応

出典：地域の砂防情報アーカイブ（広島県砂防課）
「平成30年7月豪雨災害」（広島県砂防課／平成31年3月発行）

Step 3 避難ルールを決めて、避難するイメージをもつ

あらかじめ、家族と一緒に避難ルールを決めておきましょう。

1 タイミング

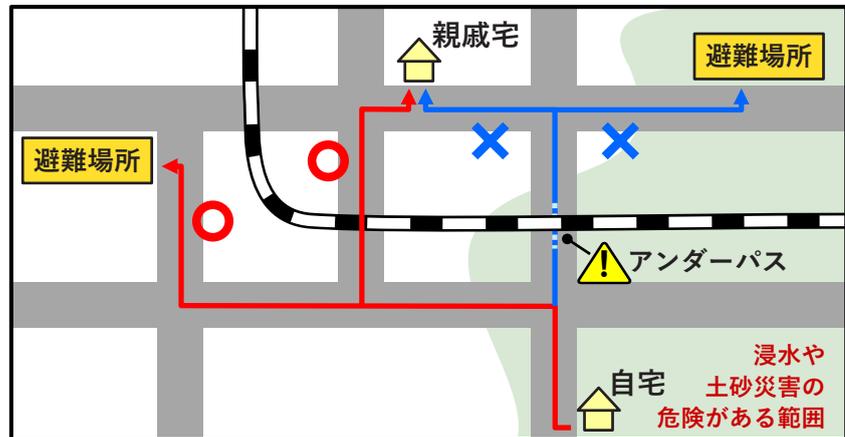
- 自身のリスクと地域のリスクを考慮して、いつ避難を開始するか、そのタイミングを決めます
 - ・ 市町から「避難準備・高齢者等避難開始」が発令されたら
 - ・ 市町から「避難勧告」が発令されたら

2 避難先

- 安全な避難先を決めておきます
- 市町が決めた「避難場所」にこだわらず、安全な親せきや友人の家などに避難するのも有効です
- 避難場所での滞在がイメージできるよう避難場所の設備や環境を確認しておきましょう

3 避難ルート

- ハザードマップなどを見て、被害のおそれがある場所や低い場所などを避けて、できるだけ安全に移動できる避難ルートを決めます
- 複数の避難ルートを決めておきましょう



4 避難方法

- 避難場所へは歩きが基本です
- 歩行が困難な方などは、車を使って移動できるよう地域や行政に相談しておきましょう

5 服装・持ち物

- 運動靴やカップ、懐中電灯などの避難用品を準備しましょう
- 数日間避難所で過ごすことも覚悟して、避難時に持ち出す「非常持出品」を準備。薬やコンタクトレンズなど、個人特有なものも忘れずに

Step 4 避難に備える、訓練する

訓練での体験が、誤った心のブレーキを防ぎます。

非常持出品をそろえる

飲食物、救急用品、貴重品など、最初の1日をしのぐために必要なものを用意。リュックなどに入れて、玄関など容易に持ち出せる場所に保管します。



情報収集手段の確保

TV、ラジオ、スマートフォン、パソコン、タブレットなど、情報を収集する手段を複数確保しておきます。停電に備えて充電器や乾電池も備えます。



地域で一緒に危険確認

ハザードマップを使ったまち歩きで、危険箇所や危険エリアなどを確認しましょう。地域には自力で避難することが困難な方がいらっしゃいます。それぞれの事情に合わせて適切なタイミングで避難できるよう、避難を支援するための準備を進めましょう。

訓練に参加して力をつける

いざという時に備え、ご近所同士でしっかり支え合い命を守ることができるよう、日頃から地域の防災訓練などに参加しましょう。



避難についての 素朴な疑問

Q&A

Q1 避難と言われてもどこに行けばいいかわかりません。

A1 避難＝避難所に行くとは限りません。今自分がいるところより安全なところ、「水や土砂が来ないところに身を確保する」ことを考えてください。

Q2 避難時、車で逃げてもいいですか？

A2 余裕を持って逃げられるタイミングであれば大丈夫ですが、浸水が始まっていたら車は避けるのが原則です。

Q3 避難所や避難場所は人も多く不便そうなので行くのが不安です。

A3 安全な場所にある親せきや友人の家に遊びに行くことや、台風襲来前に「どこか温泉に泊まりに行く」のも避難の一つの考え方です。

“ 決めた。早めに避難する！ ”

多くの証言が教えてくれた。

大事な家族のいのちを守るために、

愛する人たちを悲しませないために、

やるべき最も重要なこと、それは、

避難スイッチを ON すること。

タイミングを逸することなく決断し、安全に避難すること。

それができるのは、

自分と家族のリスクを知っている人。

自然を正しく恐れることができる人。

心の弱さを知り、客観的に自分を見ることができる人。

前もって避難のルールを決め、準備することができる人。

• あなたの避難が、みんなの命を救う。 •

災害時、避難した人のほとんどが、

“まわりの人が避難したから”を理由に避難を決めています。

だからこそ、まずあなたから、避難をはじめてください。

終わりに

本冊子「わたしたちはなぜうまく避難できないのだろう」に掲載している証言は、今後、災害のおそれが生じた際において県民の皆さんに早めの避難をしていただくための良いきっかけとなるよう、調査から得た証言をもとに編集させていただいたものです。

調査にご協力頂いた方々にあらためてお礼申し上げます。

発行：広島県 危機管理監 減災対策推進担当

〒730-8511 広島市中区基町10番52号

TEL：082-513-2781 / FAX：082-227-2122

発行年月：令和元年12月

ひろしま 大雨防災 eラーニング

教材活用法&指導例
ハンドブック

お問い合わせ

広島県 危機管理監 みんなで減災推進課
TEL:082-513-2781

学習ニーズに応じて
活用できる!

学習の前に

ひろしま大雨防災eラーニング について

教材制作の目的

風水害から命を守るために必要な防災知識を習得して定着させること。及び、それらの知識を活用し、自分や家族に当てはめた避難等を考えることができる応用力を養うこと。

制作：広島県、監修：広島大学防災・減災研究センター、協力〈单元7〉：広島地方気象台

教材の特徴と取り組み方

教材は、以下の8つの单元から構成されています。

单元一覧		学習動画	演習問題
基礎单元 風水害から命を守るための基礎的な防災知識や考え方を学ぶ			
单元①	大雨や台風によって起こる災害の種類と私たちの暮らし	○	○
单元②	災害の危険性や避難先を確認しよう～ハザードマップの見方や使い方～	○	○
单元③	身を守る情報を知って行動しよう～防災気象情報や避難情報の入手～	○	○
单元④	災害への備えをしよう	○	○
单元⑤	防災対策における3つの主体と役割を理解しよう	○	○
応用单元 より一歩進んだ学習をしたいときに			
单元⑥	大雨警報が出たらどうする?～シミュレーション課題～	—	○
单元⑦	プラスワン演習問題集	—	○
单元⑧	マイ・タイムライン(自らの防災行動計画)を作ってみよう	—	○

- 单元①～⑧まで、段階的なテーマで内容を分けているため、**習熟度に合わせた学習が可能**。学校の状況に合わせて、**单元に取り組む順番や組み合わせを選択**できます。
- 演習問題には、自分や家族などの場合に当てはめ、「**自分ごと**」として**取り組める実践問題も用意**しています。

[单元の取り組み方の一例]

学年ごとに
分けて单元に
取り組むパターン

1年生

单元① 基礎
单元② 基礎

2年生

单元③ 基礎
单元④ 基礎

3年生

单元⑤ 基礎
单元⑥ 応用

基礎と応用を
織り交ぜて
取り組むパターン

(例) 非常持出品や備蓄品について考える学習を行いたい場合

单元④ 基礎

+

单元⑦ 応用
演習2

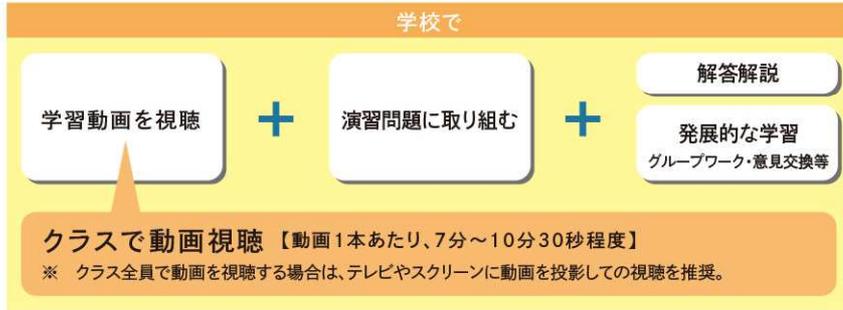
災害への備えを学習し、自分が必要だと思う非常持出品を実際に写真に撮ってアップロードし、グループで意見を交換したり、話し合ったりする。

学習動画と演習問題&解答解説の活用法

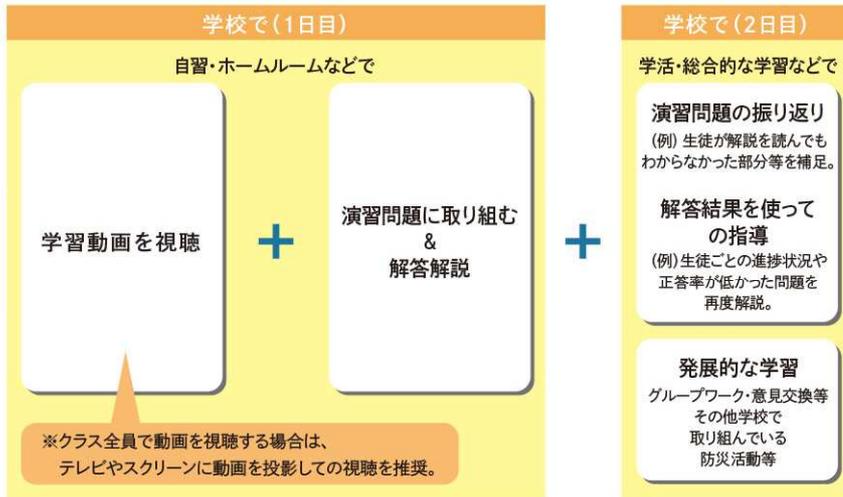
この教材では、**学習動画**と**演習問題&解答解説**を用意しています。
以下のようなパターン例を参考に、各校の状況に合わせて柔軟にご活用ください。

パターン1 授業中心で学習

● まとめて実施



● 学習の時間を分けて実施



パターン2 自宅&授業で学習



パターン3 自宅で学習



演習問題&解答解説の凡例

演習問題		設問文を記載。正答選択だけでなく、誤答選択や組み合わせ問題などさまざまな形式があります。
		設問に解答したあと、さらに理解を深めるためのグループワークなどの取り組みを促しています。
		問題を考えるにあたっての情報取得先や重要な視点など、役立つ事項を掲載しています。
		自分や家族などの命を守るために特に重要となる内容について、調べたり考えたりしておいてほしい問題です。単元⑧のマイ・タイムラインの作成の際に必要な要素を含んでいます。
		与えられた課題に対し、「自分ならどうするか?」「自分の場合はどうか?」を考える問題です。(主に単元6で出てきます。)
		「あなたの周囲で、大雨が降ると危険だと思う場所の写真をアップロードしましょう。」など、与えられた課題に応じた場所や物などを探し、写真を撮影してアップロードする問題です。(主に単元7で出てきます。)
解答解説		解答では正誤を示し、解説では、正誤ポイントや重要事項などについて丁寧にわかりやすく説明しています。
		演習問題ごとに、習得・定着させてほしい内容を示しています。
		誤答について、どの部分が正しくないのかを詳しく説明しています。
		今回の学習を機に、覚えておいてほしい重要事項やキーワードについて、説明しています。
		調べた内容の理解をさらに深め、考えを広げたり、新たな視点気づいたりする取り組みを促しています。
		考えた内容の理解をさらに深め、考えを広げたり、新たな視点気づいたりする取り組みを促しています。
問題 & 解答解説共通		自分の行動を振り返ったり、地域のことを考えたりなど、実際に調べることを促し、知識の定着につなげます。
		与えられた課題に対して回答しやすくなるように、また、行動の一例などを理解しやすくなるように、例を提示しています。
		設問や課題について答えたり考えたりするうえの一助となったり、特に意識してほしいポイントなどを示しています。

学習目標と学習課程、
具体的な学習方法が
よくわかる!

ひろしま大雨防災eラーニングを活用した 各単元の指導例・重要ポイント資料

学習の導入例

- 広島県が私たちにもたらす恩恵（自然や食べ物など）には何があるか？また、広島県に住んでいて良いと思うのはどのような点か？
- 大雨が降ったとき、広島県で起こる可能性のある災害には、どのようなものがあると思うか？
- 広島県で過去に起こった自然災害を知っているか？
- 地域で過去に起こった自然災害を調べてみたことがあるか？

学習の目標

自然災害が起こる原因や広島県の自然特性について理解したうえで、防災を学ぶ意識を高めること。

学習項目

- 1 大雨になりやすい原因
- 2 土砂災害とは
- 3 広島県で深刻な土砂災害が生じやすい理由
- 4 浸水災害とは

学習の進め方

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、生徒への投げかけ★
<p>1 大雨になりやすい原因</p> <p>演習1</p> <p>大雨になりやすい主な3つの原因と、その特徴について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 大雨なりやすい主な3つの原因…停滞前線、線状降水帯、台風。 ● 台風の中心付近だけでなく、台風から離れた場所でも大雨になることがあることに注意する。 ◆ 台風に伴い、高潮による災害が起きることがあります。（平成16年台風第18号など。） ◆ 近年では、地球温暖化の進行によって、極端な気象現象が繰り返されている。（例：激しい大雨、猛暑日、熱波、干ばつなど。） 	<p>★ 大雨や台風の情報を知るためには、どうしたらよいか？</p>
<p>2 土砂災害とは</p> <p>演習2</p> <p>土砂災害の特徴や、土石流やがけ崩れ発生仕組みを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 広島県では、最近の事例だけでも、平成26年8月や平成30年7月の大雨による土砂災害によって、大きな被害が出ている。 ● 土砂災害の原因となる現象…土石流やがけ崩れ、地すべりがある。 ◆ 広島県は土砂災害の原因となる3つの現象のうち、土石流とがけ崩れが起きやすい。 ● 土石流やがけ崩れは、いつ発生するかの予想が難しいため、土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域などにいる人は早めの避難が重要である。 	<p>★ 土砂災害とがけ崩れが発生する仕組みの違いが理解できたか？自分の言葉で友達や家族などに説明してみよう。</p> <p>★ 土砂災害による被害の写真を見て、何を感じたか、周囲の人と話し合ってみよう。</p>
<p>3 広島県で深刻な土砂災害が生じやすい理由</p> <p>演習3</p> <p>広島県で深刻な土砂災害が生じやすい理由を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ①広島県の面積の半分が、大量の水を含むと崩れやすい花崗岩の地質であること、②広島県は平地が少なく、山の近くを開発し、土地を作って建てられた住宅地が多いことから、土砂災害の危険を示す土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域の数が全国で最も多い。→約4万8000カ所 ● 上記の理由のため、広島県は雨の多い地域ではないが、土石流やがけ崩れが起きると、家や人命に被害が生じる深刻な土砂災害となりやすい。（全国で1年間に発生する土砂災害は、約1,400件といわれているが、平成30年7月豪雨では、広島県だけで1,242件もの土砂災害が起こった。） 	<p>★ 自宅周辺にはどのような土砂災害の危険性があるかを、土砂災害ハザードマップで確認したことがあるか？</p> <p>>>>自宅の災害の危険性の確認方法は、単元②を参照。</p>

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における 重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、 生徒への投げかけ★
<p>4 浸水災害とは</p> <p>演習4</p> <p>浸水災害の特徴や、洪水・内水氾濫発生仕組みを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 浸水災害の原因となる現象…洪水（外水氾濫）と内水氾濫。 ● 「外水」と「内水」の言葉の定を知り、「洪水（外水氾濫）」「内水氾濫」発生仕組みの違いを理解できる。 ● 内水氾濫は近くに川がなくても起こることがある。雨水は、地下道やアンダーパスなど、低い土地に集まるため浸水に注意する。（万が一、避難する際には地下道やアンダーパスを避けることを意識できる。） ◆ 防災気象情報や河川の水位の情報、避難情報などには、以下の様な情報があります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災気象情報 （大雨注意報・警報、洪水注意報・警報など） ・ 河川の水位の情報 （指定河川洪水予報〈△△川氾濫注意情報・警戒情報・危険情報・発生情報〉など） ・ 避難情報（高齢者等避難、避難指示など） >>>詳細は、単元③を参照。 ◆ 河川カメラが設置されている川は、河川の水位状況をパソコンなどから確認することができる。 	<p>★ 自宅周辺にはどのような浸水の危険性があるかを、洪水や浸水（内水）ハザードマップで確認したことがあるか？</p> <p>>>>自宅の災害の危険性の確認方法は、単元②を参照。</p>
<p>調べてみよう!</p> <p>あなたの住んでいる地域では、過去にどのような災害が起きましたか？</p> <p>実践</p> <p>自分の住んでいる地域で、過去にどのような災害が起こったかを知る。</p> <p>※災害を経験したことがあるなど、調べることがつらいと思われる生徒の場合は、無理をして取り組ませる必要はありません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分が暮らす地域に、過去に起きた自然災害の調べ方がわかる。 ● 上記を調べることで、災害を自分ごととしてとらえ、自然災害から身を守るために、防災を学ぶ意識を高めることができる。 	<p>★ 自分の住んでいる地域で、過去に災害が起こったことはあるか？また、それはどんな災害だったか？</p> <p>★ 「災害を調べてみてどのように感じたか？」「災害から身を守るためにはどうしたらよいか？」について意見を伝え合ったり、周囲の人と話し合ったりしてみよう。</p> <p>★ 自分の住んでいる地域に、過去に災害がなかった場合は、よく行く場所や親戚の家などで災害が起こったことがないかを調べてみよう。</p>

学習の導入例

- 自分の住んでいる地域で、過去に災害があったかどうかを調べてみる。
- 自宅や学校に、災害の危険性があるかどうかを知っているか？
- ハザードマップを実際に見たことがあるか？ どこで見たとあるか？
- これまでに、ハザードマップを使って、自宅周辺の災害の危険性を調べたことがあるか？
- 災害が起きたときの避難先や避難経路について、家族などと話し合ったことがあるか？

学習の目標

ハザードマップの読み取り方を理解したうえで、身近な地域の自然災害の危険性を判断し、避難先や避難経路を考えることができるようになること。

学習項目

- 1 ハザードマップとは
- 2 ハザードマップの読み取り方
- 3 ハザードマップの詳しい読み取り方 (土砂災害・洪水ハザードマップを例に)
- 4 避難先や避難経路の考え方

学習の進め方

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、生徒への投げかけ★
<p>1 ハザードマップとは 演習!</p> <p>2 ハザードマップの読み取り方</p> <p>ハザードマップの基本事項を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ハザードマップは、市町ごとに作成されており、凡例は市町によって異なる場合がある。 ● ハザードマップは、災害種別に作成されている。(土砂災害、洪水、浸水、高潮による災害など。) ● ハザードマップで色がついている範囲には、災害の危険性がある。 ● ハザードマップに色が塗られていない範囲で災害が起きたり、想定された被害よりも大きな被害になったりする可能性があることを理解する。 >>> 「色が塗られていない場所は安全だ」とは言いきれないことに注意! 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ハザードマップは自宅にあるか？ ない場合は、市町の窓口や市町の公式サイトでハザードマップを入手する。もしくは、災害の危険性のある場所を調べることができるウェブサイトなどを活用する。 >>> 詳しくは、このあとの実践「マイ・タイムライン作成ステップ①」を参照。 ★ ハザードマップで災害の危険性を確認するとき、気をつけなければならないことを話し合ってみよう。
<p>3 ハザードマップの詳しい読み取り方 (土砂災害・洪水ハザードマップを例に) 演習?</p> <p>土砂災害のハザードマップの読み取り方を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ハザードマップの凡例をもとに、がけ崩れや土石流による災害の危険性を読み取ることができる。 ● 土砂災害のハザードマップは、身体や人の命に危害が生じるおそれのある場所を、土砂災害特別警戒区域(赤色)と土砂災害警戒区域(黄色)に分けて示している。特に、土砂災害特別警戒区域は、著しく危険な場所である。 >>> 凡例は自治体ごとに異なることがあるので、必ず凡例を確認する。 ◆ 土砂災害からの避難方法は、危険な場所から避難をする「立ち退き避難」である。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 土砂災害ハザードマップで、自宅の周囲の土砂災害の危険性を確認しよう。

<p>学習のねらい 演習問題との対応</p>	<p>学習動画・演習問題の学習内容における 重要項目 ● 補足事項 ◆</p>	<p>学習内容を深めるための、 生徒への投げかけ★</p>
<p>3 ハザードマップの詳しい読み取り方 (土砂災害・洪水ハザードマップを例に)</p> <p>演習3</p> <p>洪水のハザードマップの読み取り方を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「浸水深」とは、水面から地面までの深さのこと。 ● ハザードマップの凡例をもとに、洪水の危険性を読み取ることができる。 ● 洪水のハザードマップは、浸水する深さに応じて色分けされている。 >>>凡例は自治体ごとに異なることがあるので、必ず凡例を確認する。 ◆ 洪水ハザードマップには、「計画規模」と「最大想定規模」がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 洪水ハザードマップで、自宅の周囲の洪水の危険性を確認しよう。 ★ もし洪水の危険性がある地域の場合、避難所などへの立ち退き避難が必要なのか、2階以上の部屋に避難（屋内安全確保）すべきかを判断しよう。
<p>4 避難先や避難経路の考え方</p> <p>演習4</p> <p>避難先や避難経路を考えるとときに重要なことを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難先や避難経路は、災害が起こりそうになってから考えるのではなく、日頃から家族などで話し合っておく。 ● 避難先は、避難経路が利用できなくなるなどの場合を考えて、自治体（市町）が指定している避難所や安全な場所にある知り合いや親戚の家など、2か所以上決めておく。 ● 川が増水する可能性がある場合は、川沿いの道やがけの近くを通らないなど、危ない場所をなるべく避けて、安全なルートを決めておく。また、複数の避難経路を考えておく。 ◆ 自治体（市町）が指定している避難所は、対応する災害種別がハザードマップに記載されている。 >>>全ての災害に対応しているわけではない。また、「洪水の場合、2階以上を避難スペースとして活用できる」等の条件が付いている場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 土砂災害や洪水が起きて避難する場合、自宅の近くに危険な場所はあるか？ また、なぜ危険か？ ★ これまでに、家族などで自然災害が起きたときの避難先について話し合ったことがあるか？ ★ 話し合っていない場合、避難先を考えてみよう。また、なぜその場所を避難先にしたのかという理由も考えてみよう。
<p>自宅の災害の危険性を調べてみましょう</p> <p>実践1</p> <p>マイ・タイムライン作成ステップ①</p> <p>ハザードマップを使って、自宅の災害の危険性を調べることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自宅や学校、自分がよく行く場所など、「どこに」「どのような」災害の危険性があるか理解できている。 【学習の内容を実践】 ● ハザードマップ以外に、災害の危険性を調べる方法を理解している。 <p>・国土交通省ハザードマップ ・土砂災害ポータルひろしま</p>   <p>・洪水ポータルひろしま ・高潮・津波災害ポータルひろしま</p>  	<ul style="list-style-type: none"> ★ ハザードマップで自宅の災害の危険性を確認する。（同じ地域の人でまとまって、ハザードマップの確認を実施してもよい。） ★ 自宅の周辺や学校、自分がよく行く場所などに、災害の危険性があるか調べてみる。
<p>あなたの避難先を考えてみましょう</p> <p>実践2</p> <p>マイ・タイムライン作成ステップ②</p> <p>ハザードマップを使って、避難先や避難先までの避難経路を考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害の危険性を踏まえて、避難先を考えることができる。 ● 避難先までの避難経路を、複数考えることができる。 ◆ 自宅が安全な場所にある場合は、「自宅」を避難先にすることが可能。いざというときの安全のために、もう1つの避難先を考えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 「避難先はどこにしたか？」「どのような経路を通って避難するか？」について、周囲の人と話し合ってみよう。 (例) ・同じ地域に住む生徒ごとにとまって、ハザードマップを使って避難先や避難経路等を考えてもよい。 ★ 避難先に行くまでの経路で、大雨が降ると危険な場所はあるか？ ★ 避難先を決める場合は、避難先までの程度時間がかかるかを考えておく。

学習の導入例

- 自宅の災害の危険性や避難経路を確認しているか？
- 災害になりそうなほどの大雨は何を見て判断したらよいと思うか？
- テレビのテロップなどで、大雨警報や警戒レベル、避難情報という言葉を見聞きしたことはあるか？
- 今まで、大雨が降ったときに避難をしたことがあるか？（避難した人は、何をもとに避難を判断したか？）
- 自宅の災害の危険性や避難経路を確認しているか？

学習の目標

避難情報などの特徴や入手方法を理解し、自分やまわりの人が適切なタイミングで避難できるようになること。

学習項目

- ① 防災気象情報
- ② 警戒レベルと避難情報
- ③ 避難情報の正しい見方
- ④ 情報の入手方法

学習の進め方

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、生徒への投げかけ★
<p>① 防災気象情報</p> <p>「防災気象情報」「避難情報」の内容について理解し、これらの情報を活用することが、身を守る行動につながることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「防災気象情報」は、気象庁や都道府県などから発表される。 ● 「防災気象情報」は、住民に大雨などの状況を伝えるだけでなく、災害の危険度を認識し、避難準備などを進めてもらう役割も持つ。 ◆ 大雨警報等のほか、以下のような情報があります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 土砂災害警戒情報 ・ 指定河川洪水予報 （△ 山川氾濫注意情報・警戒情報・危険情報・発生情報） 	<p>★ 大雨注意報・警報など（動画に出てくるもの以外）のほか、どのような防災気象情報があるか？それはどんなものか？</p>
<p>② 警戒レベルと避難情報</p> <p>演習1</p> <p>警戒レベルと避難情報の対応を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「防災気象情報」と「避難情報」は、1から5までの5段階の警戒レベルを使って伝えられており、数字が大きくなるほど、災害の危険度が高くなる。 ● 「避難情報」は、住んでいる市町から発令される。 ● 避難を開始するタイミングは、住んでいる場所や避難に時間のかかる人がいるかによって異なる。 	<p>★ 警戒レベルや避難情報という言葉を見たことがあるか？それはどのような場面で聞いたか？</p>
<p>③ 避難情報の正しい見方</p> <p>演習2</p> <p>適切なタイミングで避難するためには、避難情報の詳しい内容（取るべき行動）を正しく理解する必要があることに気づかせる。また、自分や家族などの場合に当てはめて、「自分ごと」として避難のタイミングを考えられるようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 危険な場所にいる人は、警戒レベル3または4で避難を開始。 <ul style="list-style-type: none"> （ ・ 警戒レベル3：避難に時間がかかる人（高齢者・障がいのある人・乳幼児・妊婦など）とその支援者。土砂災害特別警戒区域などの著しく危険な場所にいる人 ・ 警戒レベル4：上記以外の危険な場所にいる人は避難 ● がけのすぐそばなど、より危険な場所に住んでいる人は、避難情報の発表を待つことなく、自分たちの判断で、早めに避難することが大切。 ● 安全な場所にいる人は、避難しなくてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> >>> 自宅の災害の危険性の確認方法や自宅を避難先にする場合の詳細は、単元②を参照。 ◆ ペットを飼っている人で、避難に時間がかかる場合は、警戒レベル3で避難。 <ul style="list-style-type: none"> >>> ペットと避難する人はあらかじめ同行可能な避難先やペットを連れて避難できる場所（例.親せきの家）を確認しておく。 	<p>★ 家族などの中に、警戒レベル3で避難を始める必要がある人はいるか？</p> <p>★ 親戚や知り合い、近所の人の中で、警戒レベル3で避難を始める必要がある人はいるか？</p>

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における 重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、 生徒への投げかけ★
<p>4 情報の入手方法</p> <p>防災気象情報や避難情報の入手方法を理解する。</p>	<p>● 情報の入手先</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テレビ、ラジオ ・ 広島県防災Web (防災気象情報の発表状況や、避難情報などの情報をはじめ、土砂災害の危険度などをリアルタイムで確認)  <ul style="list-style-type: none"> ・ 広島県防災情報メール通知サービス  <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急速報メール ・ 信頼できる市町などからのSNS 	<p>★ 動画で紹介されたもの以外で、避難情報などの情報の入手先はあるか、話し合ってみよう。 (例) 防災行政無線、防災アプリ等</p> <p>★ 実際に情報を入手できるサイトを触ってみよう。 (例) 広島県防災Webを触ってみて、使い方やどのような情報が入手できるかを見つける。</p> <p>★ 自分はどこから情報を入手するか、その情報の入手先(テレビ等)から情報を入手するうえで気をつけなければならないことを話し合ってみよう。 (例) ・ 停電になったら、テレビが使えない。 ・ スマートフォンは電池の残量に注意。</p>
<p>あなたの避難開始のタイミング</p> <p>実践</p> <p>マイ・タイムライン作成ステップ③</p> <p>自分や家族などの避難開始のタイミングを考えることができる。</p>	<p>● 家族などの構成や住んでいる場所等の状況を考え、自分の避難のタイミングを考えることができる。 【学習した内容を実践】</p> <p>● 単元②【マイ・タイムライン作成ステップ②】に取り組んでいる場合は、避難先に行く時間なども考慮できている。 【複合的な要因を加味した避難のタイミングが考えられる】</p> <p>◆ 家族などに避難に時間のかかる人がいない場合でも、住んでいる場所によっては、早めに避難したほうがよい場合もある。 (例) ・ 土砂災害特別警戒区域等、著しく危険な場所に住んでいる人。 ・ 山間部に住んでいる、避難先が遠いなど避難に時間がかかる人や、徒歩での避難が難しい人。(車での避難が必要な人。)</p>	<p>★ 自分やまわりの人の場合、誰が、警戒レベル3・警戒レベル4のどちらで避難するか? またその理由は?</p> <p>★ 自分が決めた避難先に避難するには、どの程度時間がかかるか? (悪天候であること、一緒に避難する人の歩くペース、避難するときの装備などを考慮する。)</p> <p>★ 自宅を避難先にしていない場合、もしものときを考えて、避難を考えてもらいたい。 (例) 台風で飛んできたものが窓ガラスを割り、家にいることができなくなった。</p>

学習の導入例

- 自分や家族などは、非常持出品を用意しているか?
- ライフラインが止まるなどしたときのために、自宅に備蓄品を準備しているか?
- 自分や家族に必要な非常持出品について話し合ったり、避難する場合を想定して話し合ったりしたことはあるか?
- 実際に避難したことがあるか? また、避難はしなかったものの、避難の準備をするような状況になったことがあるか?
- 災害が起こりそうなときや避難が必要になったとき、どんな物が必要だと思うか?

学習の目標

災害に対する日頃からの備えや、災害の危険が間近に迫った時の行動を理解し、それらについて家族などと話し合い、今日からでも災害に備えること。

学習項目

- 1 日頃からの備え
- 2 災害の危険が間近に迫ったときの行動や準備

学習の進め方

学習のねらい 演習問題との対応

学習動画・演習問題の学習内容における
重要項目 ● 補足事項 ◆

学習内容を深めるための、
生徒への投げかけ★

1 日頃からの備え
(非常持出品・備蓄品)

演習

非常持出品や備蓄品の備えについて理解する。

- 非常持出品...安全に避難するために必要最低限持ち出すもの。
備蓄品...ライフラインや物流が止まったときのため、家などに備えておくもの。
- 非常持出品や備蓄品は、定期的に必要なものを見直したり、食料品の賞味期限などを点検したりする必要がある。
- 非常持出品や備蓄品で用意するものは、家族構成によって異なる。
(例)
・乳幼児や高齢者がいる家庭など。
- ローリングストックの具体的な内容について理解する。
- 備蓄の目安は、家族の人数分×最低3日分である。
>>>できれば週間分を備える。
- ◆ 非常持出品や備蓄品の用意以外にも、日頃からできる備えとして、ハザードマップで災害の危険性や避難先の確認、家族などとの連絡方法の確認、学校や地域の防災訓練への参加などがある。
>>>災害の危険性や避難先の確認については、単元②を参照。

★ 自分や家族などは、非常持出品を用意しているか? また、自分の家には、備蓄品があるか? 用意している場合はどのようなものを用意しているか?

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における 重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、 生徒への投げかけ★
<p>2 災害の危険が間近に迫ったときの行動や準備</p> <p>演習2</p> <p>災害の危険が間近に迫ったときに、取るべき行動を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害の危険が迫ったときには、避難情報や防災気象情報などの最新情報を確認する。 ● 避難するまでの時間を使って、家の戸締まりや非常持出品袋の用意など、必要な準備をする。 ● スマートフォンは情報収集手段や連絡手段として重要となるので、避難するまでの間に、スマートフォンやモバイルバッテリーを充電しておく。 ● 非常持出品袋は日頃から用意しておき、誰がどの袋を持つかを決めておく。 ◆ 市町の指定する避難所や避難場所へ避難する場合は、市町のウェブサイトなどで開設状況を確認してから避難する。 ◆ 危険な場所にいる人は、警戒レベル4までに、必ず全員避難する。 ◆ 非常持出品袋は、玄関などの持ち出しがしやすい場所に備えておく。 	<p>★ 災害の危険が迫り、避難を考えるような場合、自分はどのような行動をするか決めているか？ また、そのようなとき、自分や家族などの役割は決まっているか？</p>
<p>あなたや家族に必要な非常持出品を考えてみましょう</p> <p>実践1</p> <p>自分や家族などにとって、どのような非常持出品が必要かを考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族構成によって必要な非常持出品は異なる。 ● 非常持出品は、たくさん用意すればよいものではないことを理解する。(避難時に持ち運ぶことができる量。) >>>非常持出品袋の重さの目安…男性は約15kg、女性は約10kg。 ◆ 非常持出品袋を用意したら、一度背負って重さを確認してみるとよい。 >>>広島県「みんなで減災」はじめての一歩「防災グッズ一覧」ページ https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/prepare/goods.html 	<p>★ 自分や家族などの非常持出品として考えたもので、特徴的なものはあるか？ またそれは、なぜ必要なのか？ 周囲の人と話し合ってみよう。</p>
<p>命を守るために日頃からできること</p> <p>実践2</p> <p>マイ・タイムライン作成ステップ④</p> <p>命を守るために日頃から準備や行動(自助・共助)について考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 大雨が降ったときのことを想定し、自分ができる具体的な行動について考えることができる。 >>>「公助」を加えた3つの「助」については、単元⑤を参照。 ◆ 平成30年7月豪雨災害でも、「共助」の重要性が注目されている。 	<p>★ 自分が記入した内容や、新たに考えついた準備や行動(「自助」「共助」)について、周囲の人と意見を交換してみよう。</p> <p>★ 夜に大雨が降りそうときや一人で家にいるときに、どうしたらよいかを、周囲の人と話し合うなどしてみよう。</p>

学習の導入例

- 「自助」「共助」「公助」という言葉を聞いたことがあるか?
- 地域の人に挨拶したり、地域の行事に参加したりなど、日頃から地域との関わりを持っているか?
- 災害の危険が迫ったときに備えて、日頃から自分が行っている対策があるか?
- 実際に避難したことがあるか? また、避難はしなかったが、避難の準備をするような状況になったことがあるか?

学習の目標

防災対策の3つの主体である「自助」「共助」「公助」の役割を理解するとともに、自助や共助において自分はどんなことができるのかを考えられるようになること。

学習項目

- 1 行政が取り組む「公助」
- 2 助け合いの「共助」
- 3 一人一人が取り組む「自助」

学習の進め方

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、生徒への投げかけ★
<p>1 行政が取り組む「公助」</p> <p>演習1</p> <p>「公助」の役割について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 公助とは、国、県や市町、消防や警察などの行政が、住民の安全と安心を確保するために取り組む対策のこと。 ● 公助には、「ハード対策」と「ソフト対策」がある。 (例) ・ハード対策：砂防堰堤の整備や河川改修など。 ・ソフト対策：ハザードマップの作成や災害派遣活動の支援など。 ● 行政は公助に取り組んでいるが、行政だけで全ての災害に対応することはできない。 (例) ・平成30年7月豪雨災害。 ◆ 大規模な災害に対して公助だけで対応できない場合もあるため、自分や家族などの命を守るための「自助」や、地域やコミュニティといった周囲の人たちと助け合って命を守る「共助」に取り組むことがとても重要。 ≫災害への備えの詳しい内容については、単元④を参照。 	<p>★ 公助の取り組みであるハード対策やソフト対策を見たことがあるか? また、それはどのようなものか? 周囲の人と話し合ってみよう。</p>
<p>2 助け合いの「共助」</p> <p>演習2</p> <p>「共助」に関する行動について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 共助とは、地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うこと。 ● 自分たちにできる共助の例を理解する。 ● 災害の危険が迫ったとき、地域やコミュニティの人たちと助け合うためには、日頃から地域とどのように関わることが大切かを理解する。 (例) ・地域の人とあいさつをする。日頃から避難訓練、清掃やお祭りなどの地域行事に参加し、コミュニケーションを図る。 	<p>★ 自分たちが避難時にできる共助にはどのようなものがあるか、周囲の人と話し合ってみよう。</p> <p>★ 災害が起こりそうなときに、地域の人たちと助け合うために、自分たちが日頃からできることとしてどのようなものがあるか、周囲の人と話し合ってみよう。</p>

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における 重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、 生徒への投げかけ★
<p>3 一人一人が取り組む 「自助」</p> <p>演習3</p> <p>「自助」に関する行動や役割について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自助とは、自分や家族の命を守ること。 ● 日頃からできる自助の例を理解する。 ◆ 災害が起きたときに、すぐに救助隊などの助けが来るとは限らない。自分や家族の命を守るように、自分たちができる備えを進めておくことが大切。 	<p>★ 自分が実践している、または自分ができると思う自助にはどのようなものがあるか、周囲の人と話し合ってみよう。</p>
<p>考えてみよう!</p> <p>どのように避難を呼びかける?</p> <p>実践!</p> <p>地域の人などに対する、避難の呼びかけ方がわかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 状況設定を理解して、避難の呼びかけ方を考えることができる。 	<p>以下のような点について、グループで話し合ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 避難の呼びかけを考えてみて、どのようなことを感じたか? ★ それぞれが記入したものについて、どのような点が良いか、もっと工夫できる点はあるか、などについて話し合ってみよう。 ★ もし、災害の危険が迫ってきて避難する場合、地域の誰に避難を呼びかけるか? また、なぜその人に避難を呼びかけたほうがよいと思うか? ★ 地域とのつながりを築くために、どのようなことをしたらよいか、どのようなことができるか?